

## 会報

Since 1999

秋のバザー開催/9月18日(水)~22日(日)バザー用品募集!  
ボランティア募集!バザーの準備や当日販売を行う人手が足りません。

Pick Up  
Event 2019

留学生支援の会の幹事になってくださる方はいらっしゃいませんか  
留学生の笑顔を作る活動です。興味のある方は当会までお電話でお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5803 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

## Contents

Page 1.	1. 巻頭言
Page 2.	2. ご挨拶
Page 3.	3. 事業報告・会計報告
	3-1 平成30年度事業報告
	3-2 平成30年度会計報告
Page 7.	4. 事業計画・予算
	4-1 令和元年度事業計画
	4-2 令和元年度予算
Page 9.	留学生支援の会会則
Page 12.	5. 活動報告
	5-1 羽田JAL整備工場見学報告
	5-2 鎌倉ツアー報告
	5-3 春期バザー報告
Page 18.	6. ホームステイ報告
	ふじのくに留学生ツアー
Page 21.	ACTIVITIES
	秋季バザー開催のお知らせとバザー用品ご寄付のお願い

## FOCUS

## 1. 巻頭言

人と人との出会い  
～留学の真骨頂～

東京外国語大学長  
林 佳世子

留学が盛んな本学に勤務し、時々頭に浮かんだのは、自分がトルコに留学をした時のことでした。時は、1984年。もう、35年も前のことなので、参考にもならないことを承知の上での、思い出話です。

当時、私はすでに博士課程の学生だったので、留学の目的は大学や文書館での研究でした。文部科学省の「アジア諸国等派遣」と呼ばれる奨学金(当時)を獲得し、旅費と月額10万円の奨学金をいただきました。トルコに着いて苦勞したことは、大学での事務手続きがとてみたいへんだったこと。そして、日常会話ができなかったため生活に苦勞したこと、の2点です。外大で教える身と

なってから、これは「マル秘」扱いですが、外大以外の大学ではトルコ語会話の授業などなく、論文や古文書は読んでも、「元気？今日はどう？」のような会話は、正直いって、イスタンブールについて初めて耳にしました。

そんな中、頼りになったのは、お節介なトルコ人の年下の学生たち。大学院に留学したものの、私を囲んでくれたのは学部の学生たちでした。珍しい日本からの留学生に興味津々。あちらこちらに連れまわしてくれ、住むところを探してくれ、買い物に付き合ってくれました。大学や教授にいわれたわけでもなく、みんな、いわばボランティア。結局、そういう形で知り合った人々が私にとってのトルコのイメージを形づくり、その後の35年のトルコの歩みを、彼らの人生の歩みと重ね合わせて理解することになりました。

そのような経験を通して思うことは、留学という体験を、人生のなかで意味あるものにしてくれるのは、人と人との出会いだということです。インターネットが普及し、様々な疑似体験ができるようになってきている今日の世界ではなおのこと。生身の人間との出会いが、留学の真骨頂だといえるでしょう。

だからこそ、東京外国語大学においても、留学生と日本人学生が日常的に触れ合い、議論し、助け合い、そして思い出をつくっていく仕組みが重要だと思い、大学としてその整備に取り組んでいます。しかし、制度に魂を入れるのは人間です。自由な精神をもち、世界に人々と新しい未来を一緒につくっていく気概をもった本学の学生たちの存在が、本学における留学生と日本人学生の共学を支えています。そして、交流の場の提供では、留学生支援の会にとってもお世話になっています。

留学生にとって、日本での人々との出会いが、一生の宝となるよう、一緒に努力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

## 2. ご挨拶

### 新体制で知恵を絞りましょう

副会長 勝又美智雄

新年度が始まりました。国民の象徴である天皇が交代し、年号が「平成」から「令和」へ変わりましたし、東京外国語大学の学長も6年間務めた立石博高さんから林佳世子さんへ変わりました。外大の学部数も3学部に加え、留学生の数も着実に増えています。日本全体が大きく変化するように、「支援の会」を取り巻く環境も、私たちの活動もどんどん変わりつつあります。

発足以来19年間、中嶋洋子会長、笹岡太一副会長、梅田由美子さんのトロイカ体制で発展してきた「支援の会」も昨年春に三役が世代交代したのを機に、これまでの事業を全体的に見直しながら、試行錯誤を続けてきました。会の財政事情が年々厳しくなる中で、今日、留学生たちが望んでいることは何か、それに対してどんな「支援」をすべきか、それもいかに「コスト・パフォーマンス」を高めるかに知恵を絞ってきました。とりわけ、会の運営がすべて幹事を中心とする人たちのボランティア精神に支えられていることから、幹事の皆さんの過大な負担にならないように工夫を重ねてきました。

その結果、会の活動に参加した留学生たちの反響も良く、「やってよかった」と世話役を務めた幹事の皆さんの何よりの励みになっています。

本会報の編集もこれまで長く担当してくれた近藤一郎さんから、昨年夏に新しく幹事になってくれた木全繁・玲子夫妻へ変わりました。また新しく手伝ってくれる人たちが毎月の幹事会に顔を出してくれ、嬉しい限りです。

4月6日、入学式のあとの保護者説明会では、日程が詰まっている関係で、昨年のように鮎澤会長と留学生たちが登壇して「支援の会」について協力をお願いする時間が取れず、留学生課長が大

学の留学生事業の説明の中で簡単に「支援の会」を紹介することで終わりました。そのせいもあつてか、去年は説明会終了後に入り口で待機している「支援の会」のテーブルに来て、その場で入会手続きをしてくれた保護者が大勢いたのですが、今回は少なかったのが残念でした。あとは入学関係書類に同封した入会案内を読んで、会員になってくれる人がたくさん出てくることを期待するばかりです。

### 3. 事業報告・会計報告

#### 3-1 平成30年度事業報告

##### A. 生活支援事業

###### 1. 給付事業

###### (1) 生活用品などを廉価で提供するバザー

###### 1) 春期バザー

平成30年4月5日(木)～6日(金)

場所 国際交流会館2号館交流ホール

来場者 約200名

収益金：263,977円

###### 2) 秋期バザー

平成30年9月27日(木)～28日(金)

場所 国際交流会館2号館交流ホール

来場者 留学生約250名 日本人学生  
数名

収益金：250,000円

###### 3) 外語祭バザー

平成30年11月23日(金)～25日(日)

場所 研究講義棟2階226号室

来場者 約500名

作業者 留学生5名、幹事20名

収益金：234,687円

※バザー残品を外語祭来訪者へ販売して資金を得ました。収益は全て留学生のために有効に活用させていただいています。

各バザーとも品物のご提供、お手伝い等ありがとうございました。

###### (2) 学会発表旅費の助成金を支給

海外学会発表 1人5万円を4名に支給

○平成30年5月12日

日本教育と日本学研究国際シンポジウム(上海同済大学)

○平成30年8月18日～19日

韓日対照言語学シンポジウム  
(蘇州大学) 2名

○平成30年8月29日～9月1日

和漢比較文学会(国立台湾大学)

国内学会発表 1人2万円を3名に支給

○平成30年7月8日

日本文学協会研究発表大会(金沢大学)

○平成30年10月26日～27日

東アジア日本研究者協議会国際学研究会  
大会(京都リサーチパーク) 2名

###### 3. 相談事業

留学生の生活についての身近な相談に対応しました。

##### B. 友好親善事業

###### 1. 国際交流事業

国際交流事業を大学と共催しました

平成30年12月7日(金)

13時～17時 日本の伝統文化体験(生  
け花・茶道・着付け・囲碁など)

18時～20時 国際交流の夕べ

大学会館1Fにて開催

来場者 留学生100名、日本人学生  
20名、来賓・大学関係者・支援の  
会等40名(合計160名)

###### 2. 会員等の協力による友好親善事業

###### (1) 「ふじのくに留学生ツアー」

平成31年2月22日(金)～24日(日)

留学生16名参加

(2) 会員によるホームステイの受入れを行いました。

## C. 日本理解事業

### 1. 伝統文化の見学

#### (1) 歌舞伎を見学し懇親茶話会を開催

平成 30 年 6 月 3 日(日)

国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」

参加者 留学生 41 名、日本人学生 9 名、  
幹事 9 名、大学職員 2 名(合計 61 名)

#### (2) ICUでの能楽鑑賞教室

平成 30 年 7 月 7 日(日)

参加者 留学生 10 名 幹事 6 名

#### (3) 東京下町文化体験ツアー

平成 30 年 12 月 2 日(日)

隅田川クルーズ、浅草散歩、江戸東京博物館見学、ちゃんこ鍋

参加者 留学生 45 名、日本人学生 6 名、  
幹事等 11 名 (合計 62 名)

#### (4) 古都鎌倉見学ツアー

平成 31 年 3 月 19 日(火)

高德院(鎌倉大仏見学)、鶴岡八幡宮  
グループごとに昼食・フリータイム  
(おすすめプラン等参加)

参加者 留学生 22 名、日本人学生 3 名  
幹事 7 名、鎌倉在住卒業生 2 名、鎌倉観光協会ガイド 4 名 (合計 38 名)

### 2. 伝統文化の体験・学習

#### (1) 伝統文化体験教室を大学と共催

平成 30 年 12 月 7 日(金)学生会館など  
振袖着付け、華道、茶道、囲碁、日本の  
伝統的遊び

来場者 合計 150 名

#### (2) 伝統文化指導教室を開催

書道、囲碁 週 1 回

華道、茶道 月 2 回

参加者 留学生延べ 200 名

#### (3) 日本語広場を開催

留学生やその家族対象

通年週 4 回

参加者 講師 4 名、受講者延べ 200 名

#### (4) お茶会(裏千家茶道倶楽部と共催)

平成 30 年 7 月 15 日(日)学生会館和室  
茶道体験、浴衣の着付け等

参加者 留学生多数

### 3. 日本の「今」を知る

#### (1) JAL工場見学・羽田空港見学

平成 31 年 2 月 25 日(月)

参加者 留学生 25 名 日本人学生 2  
名、幹事 8 名 計 35 名

## D. 国際理解事業

### 1. 各国文化紹介

各国のお茶とお菓子を通しての文化紹介は、日程調整がつかず開催できませんでした。

### 2. 国際理解教育への協力

中学校の国際理解教育授業も協力しました(大学の事業に協力)。

平成 30 年 6 月 30 日(土)

町田市立真光寺中学校

留学生 3 か国(中国、台湾、韓国)  
6 名 幹事 3 名 (計 9 名)

## E. 広報その他の事業

### 1. 「会報」を 3 回発行

第 58 号(平成 30 年 6 月) 第 59 号

(同 11 月) 第 60 号(平成 31 年 2 月)

### 2. 会員募集の説明を実施

大学新入生入学式の際(平成 30 年 4 月 7 日)に入会を呼びかけました。

留学生 5 名、会長、幹事 5 名



### 3. 幹事会の開催

幹事会を開催して行事の企画・運営等を相談しました

平成 30 年：4 月 1 日(日)、5 月 6 日(日)、  
6 月 10 日(日) 7 月 22 日(日)  
9 月 22 日(日)、10 月 28 日(日)、  
11 月 17 日(土)、12 月 16 日(日)  
平成 31 年：1 月 27 日(日)、2 月 17 日(日)  
3 月 31 日(日)

### 4. 会則・人事

#### (1) 主要幹事の交替がありました

1) 支援の会創設(1999 年)以来務めてきた三役、中嶋洋子会長、笹岡太一副会長、梅田由美子幹事(留学生課職員)が退任しました。

2) 鮎澤孝子会長、勝又美智雄副会長、岡田昭人副会長が選任されました。

#### (2) 支援の会会則の一部改正を行いました

役員交代等に伴い、会則の一部を改正しました(新会則は 9～11 ページに掲載)。

### 3-2 30年度会計報告

#### A. 平成30年度（平成30年4月～平成31年3月）一般会計収支決算

東京外国語大学留学生支援の会 平成30年度 一般会計収支決算 平成30年4月1日～平成31年3月31日

《収入の部》				
科目	項目	30年度予算額	30年度決算額	摘要
前年度繰越金		3,878,059	3,878,059	
会費	一般会員	2,599,000	2,427,000	4,000×110名+1007,000 12,000×154名-1,512,500 8,000×8名+41,000
	協賛会員	40,000	120,000	10,000円×8名
寄付	一般	200,000	270,000	
その他	バザー等	900,000	1,038,587	バザー一般基金・行事参加費・学生映画会補助金
	利息	10	9	
収入の部合計(A)		7,578,069	7,782,655	
《支出の部》				
科目	項目	30年度予算	30年度決算	摘要
活動費 (友好親善事業・相互理解事業)	国際交流行事共催費	380,000	387,500	伝統文化体験費・交流会費・大学との共催
	空路見守り費	200,000	120,580	緊急見守り
	日本文化見守り費	600,000	598,720	歌謡見守り・東京下町体験・ふじの園ツアー・伝統祭典
	日本先端技術見守り費	200,000	179,889	先端技術工場見守り
	日本文化体験費	200,000	135,644	茶道・香道・茶道・日本橋広場
	日本人学生との交流会費	100,000	-	舟・菓子等
	その他の交流活動費	10,000	-	国際環境教育協会・交流会
活動費 (生活支援事業)	教育研究支援金	300,000	280,000	国際学会奨励金・障がい者補助金
	連絡協賛協力謝金	300,000	448,500	留学生国際交流協力謝金
活動費 (広報普及事業)	通信費	350,000	327,744	会報発送費等
	印刷費	300,000	428,878	会報印刷費等
	活動費小計(a)	3,220,000	2,805,439	
運営費	消耗品費	10,000	34,280	プリンターインク代等
	備品費	20,000	4,704	キーボード・シュレッダー
	連絡協賛費	25,000	1,512	書類購入
	郵便振替手数料	40,000	34,718	郵便振替手数料
	その他	-	41,836	大学山部ツアー寄付等
	運営費小計(b)	95,000	116,940	
予備費	(c)	-	-	
支出の部の合計(B)		(a)+(b)+(c)	2,882,979	
		(A)-(B)	4,299,676	
特別会計繰入(C)	緊急貸付基金	-	70,000	緊急貸付金返済
次年度繰越金		(A)-(B)+(C)	4,229,676	

監査の結果、適正であったと認めます。  
 令和元年5月28日  
 監事 山口健一 印

## 4. 事業計画・予算

### 4-1 令和元年度事業計画

#### A. 生活支援事業

##### 1. 給付事業

##### (1) 生活用品のバザー (廉価で販売)

- 1) 春季バザー 4月上旬
- 2) 秋季バザー 9月下旬

##### (2) 学会出席旅費の助成金

合計 30 万円

国外開催の学会 1人 5万円

国内開催の学会 1人 2万円

##### 2. 相談事業

留学生の生活についての身近な相談に対応

#### B. 友好親善事業

##### 1. 国際交流事業

「国際交流の夕べ」を12月に大学と共催  
留学生と一部日本人学生、留学生支援団  
体を招待

##### 2. 会員等の協力による友好親善事業

##### (1) ホームステイ・ホームビジットの受入れ

ふじのくに留学生ツアーなど

##### (2) 地域の文化的行事への参加

#### C. 日本理解事業

##### 1. 伝統文化の見学

- 1) 国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」見学  
6月予定
- 2) 江戸文化体験ツアー (川越散策)  
時期未定 (秋～冬)
- 3) 鎌倉見学旅行  
鎌倉の文化遺産と自然の見学、  
令和2年3月予定
- 4) 地元の伝統的・文化的行事の情報提供

##### 2. 伝統文化の体験

- 1) 「伝統文化体験教室」大学と共催  
12月
- 2) 日本語広場を週4回開催
- 3) 「伝統文化指導教室」開催  
茶道・華道・書道・囲碁
- 4) 茶会を開催

##### 3. 日本の「今」を知る

工場見学など

#### D. 国際理解事業

##### 1. 各国文化の紹介

テーマ：私の国のお茶とお菓子

##### 2. 国際理解教育授業への協力

小・中・高の授業に留学生とともに協力  
する。

#### E. 広報その他の事業

1. 「支援の会 会報誌」を年3回刊行  
(第61～63号)
2. ホームページ (facebook) の運用
3. 会員募集のための諸活動  
大学入学式などでアピール
4. 幹事会の開催 (原則毎月)
5. 外語祭バザー

## 4-2 令和元年度予算

### B. 令和元年度（平成31年4月～令和2年3月）一般会計予算

#### 《収入の部》

科目	項目	元年度予算額	摘要
前年度繰越金		4,820,276	特別会計繰入金1,630,000含む
会費	一般会員	1,905,000	3,000円×163名 12,000円×118名
	協賛会員	40,000	20,000円×2名
寄付	一般	300,000	
その他	バザー等	1,000,000	バザー収益・行事参加費
	利息	10	受取利息
収入の部合計(A)		8,065,286	

#### 《支出の部》

科目	項目	元年度予算額	摘要
活動費 (友好親善事業・ 相互理解事業)	国際交流行事共催費	380,000	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
	史跡見学費	120,000	鎌倉見学
	日本文化見学費	500,000	歌舞伎見学・東京下町ツアー・ふじの国ツアー
	日本先端技術見学費	150,000	先端技術工場見学
	日本文化体験費	150,000	華道・書道・茶道・日本語広場
	日本人学生との交流会費	100,000	茶・菓子・昼食等
	その他の交流活動費	10,000	国際理解教育交通費・謝金
活動費 (生活支援事業)	教育研究支援金	320,000	国際学会発表出席旅費補助金
	連絡室協力謝金	500,000	留学生連絡室協力謝金
活動費 (広報普及事業)	通信費	300,000	会報発送費等
	印刷費	400,000	会報印刷費等
	活動費小計(a)	2,930,000	
運営費	消耗品費	30,000	プリンターインク代・コピー用紙代
	備品費	20,000	
	連絡室運営費	10,000	
	郵便振替手数料	60,000	
	その他	-	
	運営費小計(b)	120,000	
支出の部の合計(B)	(a)+(b)	3,050,000	
次年度繰越金	(A)-(B)	5,015,286	

# 東京外国語大学

## 留学生支援の会 会則

### 第1条（名称）

本会は「東京外国語大学留学生支援の会」と称する。これを「東外大留学生支援の会」あるいは「東外大支援の会」と略称することができる。

英文表記は Tokyo University of Foreign Studies — International Student Support Association とし、英文略称を TUFUS-ISSA とすることができる。

### 第2条（所在地）

本会の事務局は東京都府中市朝日町 3-11-1、東京外国語大学（以下、東外大と略記）に置く。

### 第3条（目的）

本会は、東外大に在籍する外国人留学生、研究者及びその家族への支援、並びに彼らの日本理解を深め、日本人との友好親善を促進する活動を行うことを目的とする。

### 第4条（事業）

本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 留学生の生活がより快適なものになるような支援事業
2. 留学生の日本理解が深まり、日本人との友好親善が促

- 進できるような支援事業
3. 活動状況を広く知らせる会報、ニュースレター等の作成と発行
4. その他、本会の目的達成に資する事業

### 第5条（会員）

本会は国籍の如何を問わず、本会の目的に賛同する者で組織する。会員はいつでも役員会（幹事会）に事業に資する提案ができ、また事業に参加することができる。

### 第6条（役員）

本会は次の役員を置く。

名誉会長	若干名
顧問	若干名
会長	1名
副会長	2名
事務局長（幹事長）	1名
幹事	20名以内
会計	1名
監事（会計監査役）	1名

### 第7条（役員を選任）

役員は次のようにして定める。

1. 会長、副会長、幹事、会計、監事（会計監査役）は総会で出席者の半数以上の賛成をもって選出されるものとする。
2. 役員名簿は年度当初に別表で明示する。

### 第8条（役員職務）

役員職務は次の通りとする。

1. 会長は本会を代表し、幹事会を招集し、議長を務める。

2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、会長の職務を代行する。
3. 幹事は総会を構成し、総会の議決に基づき、本会の業務を執行する。
4. 幹事長（事務局長）は議決に基づき、幹事の業務を指揮する。
5. 会計は、本会の会計年度の予算案、決算報告案をまとめる。
6. 監事（会計監査役）は本会の会計執行の状況を監査する。

#### 第 9 条（役員任期）

各役員任期は 2 年（通常は 4 月から）とする。但し、再任は妨げない。

#### 第 10 条（幹事会）

幹事会は原則、毎月開催し、総会（幹事団と会員有志で構成する拡大幹事会）は通常、年 1 回開催する。幹事会は議事録を作成し、会員がいつでも閲覧できるようにする。

#### 第 11 条（会報）

本会の活動状況を広報する会報は通常年 3 回（2 月、6 月、11 月）発行し、必要に応じてニュースレターなどを追加発行する。

#### 第 12 条（事業費）

本会の事業運営経費は会費、寄付金およびその他の収入をもって充てる。

#### 第 13 条（会計年度）

本会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年の 3 月 31 日に終わる。

#### 第 14 条（決算報告）

会長は毎会計年度終了後、決算報告書を作成し、会員に公表しなければならない。

#### 第 15 条（会則）

本会の会則は総会において出席者の 3 分の 2 以上の賛成で成立し、かつ改訂できる。

#### 附則

本会則は制定の日（2019 年 4 月 21 日）から施行する。

別表： 2019年度の役員名簿は以下の通り。

名誉会長	中嶋洋子
顧問	笹岡太一 梅田由美子 杉森弘子
会長	鮎澤孝子
副会長	勝又美智雄 岡田昭人
幹事長	井上久美子
幹事	阿部やよい 河野喜代子 北村みどり 木全繁 木全玲子 小平京子 近藤一郎 佐久間美知 末次透 高橋京子 竹内朋子 中村皓一 野口久仁子 山田和子 山崎智子
会計	阿部やよい
会計監査	川口健一

## 5 . 活動報告

### 5-1

#### “羽田 JAL 整備工場見学報告”

(日本のモノづくり技術紹介)

##### I. 実施内容

2月25日(月) 8:30～17:30

参加者: 留学生 25名 日本人学生 2名

幹事 8名 計 35名

(参加幹事(敬称略): 鮎澤、井上、河野、北村、  
小平、百瀬、山崎、中村)

##### <行程>

8:30 外大集合 8:50 出発

10:15 羽田空港国際線ターミナル到着

10:35 ミーティング→その後、留学生 5名+日  
本人1名(班長)を基本とする班単位で自  
由行動 (この間、昼食を含む)

13:45 再集合→出発

14:30～16:10 JAL 整備工場見学

16:20 出発 17:30 外大到着、解散

##### II. 羽田空港地区での一日を日記風に

###### <集合・出発>

2月後半、まだまだ春の息吹には遠く、また当日は一部雨模様の曇天となったが、総勢 35名(うち1名は羽田国際線ターミナルで合流)で出発した。この日はちょうど大学の前期入試当日にあたり、バスの駐車も例年とは異なって留学生会館に近い路上を指定されたが、留学生にとってはむしろ好都合でほぼ順調な集合状況であった。懸念した高速道路の大渋滞もなく、順調に走行してほぼ予定通りに到着。

###### <羽田空港国際線ターミナル>

参加者を6つの班に分けての自由行動であったが、日本人学生の参加が2名と少なかったため、幹事4名が班長役を担った。2010年のD滑

走路運用開始に合わせて完成したこの国際線ターミナルへは、2016年3月にANA整備工場見学としてツアーを組んでおり、当会としては今回が2度目の公式行事としての訪問であるが、日本の伝統と新しい息吹とを同時に感ずることができる場所であり、我々日本人にも十分楽しめる場所である。各班それぞれにまずは4階のショッピングゾーン、そして5階および屋上の展望デッキを見学したが、この頃には雨も上がってデッキからの眺めも楽しめた。当日最大の見どころは、近づく雛祭りに合わせた巨大な展示であり、ここが最高の撮影スポットとなった。

3時間の自由時間のハイライトといえばやはりランチタイムであり、それぞれ相談しながら種々のレストランに席を陣取った。ただ場所柄やや高め の価格設定であり、メニュー選択には班長を務めてくれた方々が苦慮したのではと想像する。昼食後、留学生はショッピングに時間をかけるのかと思ったがそれほどではなく、むしろ“甘味喫茶”周辺に集結してそれぞれに楽しんでいった。約3時間という自由時間は意外に早く過ぎ去った気がする。





## <JAL 整備工場>

この見学は3ヶ月前からの予約開始が直ぐに満席となる位の人気を誇り、その評判に違わず巨大な航空機の迫力ある威容を間近に見ることができた。前半の概説は羽田空港の4本の滑走路の向きに関する論理的説明がなされていた点の特徴。途中休憩時には、航空機ファーストクラスの座席や制服等の歴史が展示されていて留学生を楽しませてくれたが、最も人気があったのは即席でJALの制服を着用できるサービスであり、各自が凛々しい姿を見せてくれた。



後半はいよいよ現場見学、屋内で見る機体の巨大さと、そこで行われている整備作業に見入った。とりわけタイヤも間近に眺めることができ、その交換頻度等を初めとする安全確保への熱意を感じ取ることができた。集合写真は最近何かと話題のボーイング737を前に撮影したが、この機種こそJALの主力機でもあるようだ。

### III. 感想

“日本のモノづくり技術紹介”と銘打ったツアーとしては2度目の航空機整備見学であったが、乗客として見る航空機とはまた違って間近に見るその機体と整備状況はさすがに迫力があり、参加者も満足してくれたものと思う。現時点では、製鉄業、自動車産業、それに航空機関連をメニューとして確保できているが、もう少し範囲を広げることも考えたい。

(文責 幹事/中村)



### JAL工場見学—感想文

イデルチョローン エルデネオヤンガ  
(モンゴル) 研究生

2019年2月25日に羽田空港に初めて行って、時間をすごく楽しく過ごせました。自分の国にいた時、国内空港会社で働いていた経験があったので、空港に行く時、いつもなんとなく感動してしまいます。羽田空港は成田空港と違って、より日本風の環境づくりの場所だなと思われました。静かで綺麗な環境でした。世界中に9つしかない5つ星空港の1つという話を聞いて、見学できてよかったなと思いました。空港の中を歩いてみると、モンゴルのカシミアブランドであるGOBIの店があって、懐かしく親しく感じました。空港の中のレストランでランチ食べるなんて思わなかったが、美味しい和食も食べられて本当にありがたい気持ちでした。展望台やお土産ショップでもうちょっとゆっくり過ごせる時間があったらなと思いましたし、面白かったからか、時間は経つのが通常より早かったような感じがしました。

次にJALの工場に向かって、そこで空港について、飛行機についてのいろんな新しい情報を伝えてもらって、いろいろな面で勉強になりました。客室乗務員の服装も実際に試してみて、写真を撮

ってもらい、面白くて懐かしかったです。飛行機が離着陸するのを見るのが大好きだから、近くから見る事ができて本当に嬉しい気持ちで溢れました。修理中の大きな飛行機などをも近くから見るのが本当に最高でした。

残念なことに、美術館の方はゆっくり見たらよかったです。あまり見る事ができませんでした。客室乗務員の制服の歴史的な変化などをゆっくり見て、写真を撮るつもりだったが、できませんでした。大体時間に合わなかった感じがしました。またお土産ショップで買い物したいと思ったら、時間が短いので、あまり考えずにちょっとだけ買い物できました。あと全体的に10-20分くらい余裕があったらなと思いました。

以上をまとめてみると、工場見学に行き、本当によかったなと満足できた気持ちです。これからも他の工場、例えば ANA 工場見学に行けたら嬉しいなと考えています。また日本の代表的なブランドの工場見学に行く機会があればと思い、いつも楽しみにしています。例えば、日本はトヨタ、ロボットなどで世界に知られている国だから、そういった特徴的なものが興味深いと思われま

最後に、一番言いたいのは、見学に行く機会を与えてくれた皆に心から感謝しております。見学するために半年前ぐらいから予約して、私たち留学生のためにいつも貴重な時間を出してくれて、努力してくれてどうも本当にありがとうございます。これからもいろんなイベントを楽しみに待っています。

## 羽田空港と JAL 整備工場との印象

カムラ ペンタクーン (ラオス) ISEP

このツアーのおかげで、私は色々な日本のプライドや日本スタイル空港などが分かりました。とても楽しかったです。それに、私は色々なこの見学との印象があります。特に、羽田空港を見学した時です。なぜかという、その時、私は色々な日本人の昔の生活習慣に触れましたから。例えば、

日本橋や商店やなどです。その時、色々な昔の人々の生活習慣が私の頭に浮かびました。例えば、昔の人々はどんな生活をするか、どんな食べ物を食べるか、色々な事を私の頭に浮かびました。なお、私は日本橋をイメージする時は着物を着る人が私の頭に浮かびます。だから、日本橋を渡った時着物を着る人の姿が私の頭に浮かびました。この雰囲気に触れられたのをきっかけにこれから私は色々な日本の昔の事に興味があります。または JAL 整備工場を見学した時は私は色々な日本のプライドが分かりました。全部の説明は分かりませんでした面白かったです。

## 羽田空港のツアーについて

オリカサ ユリ (ブラジル) 日研生

私は今までの行ったツアーは羽田空港が一番面白かった。それはなぜか、近くで飛行機を見、飛行機の操作とシステムを知ることが出来た。そのツアーについてこのレポートを書き、何をした、見た、食べたことを言おうと思う。

2月25日に8時半に大学で集合して、9時に出発した、しっかり覚えていないが確かに11時ごろに羽田空港に到着した。空港のロビーへ行った、説明とグループ形成の後で私たちは自由に歩けた。羽田空港は成田空港よりそんなに広くはないが大きい。そこではいっぱい写真を取って、江戸時代の橋があった、そして飛行機が離陸し着陸する場所へ行った。お昼ご飯の時間になったので食べに行った、羽田空港であるレストランはほとんど高い、しかし一つのレストランはそんなに高価ではなかった、それで美味しかった。13時半にロビーで集合し、バスに乗って JAL の工場へ行った。

JAL の工場に着いて訪問者バッジをもらって場所に入った。まず、係員がスケジュールを説明できるように教室に行き、その後散歩に行った。JAL ミュージアムを見、スチュワーデスとパイロットの服を着て写真を撮ることができた。それから私たちは教室に戻って、係員が飛行機のシステム、飛行機の離着陸方法、航空機の装備について説明

した。後で私たちは工場自体に行くことができるようにグループに分けられ、私たちは役人によって導かれて、それらは工場の各部門がどのように働くかを説明してくれた。そしてバスに戻って大学に戻った、ツアーのお終い。

私本当にこのツアーは好きだった、どうしてか飛行機についてちょっとの興味持っているので素敵だった。参加して良かったと思っている。

### 「羽田空港・JAL 工場見学ツアー」に参加して

モンゴル語科 4年 森 友莉恵

2月25日、留学生支援の会さんが主宰された「羽田空港・JAL 工場見学ツアー」に参加させていただきました。学校の掲示板で案内を見つけ、留学生と仲良くなれる良い機会だと思い参加を決めました。一人で参加したので初めは友達ができるか不安でしたが、いろいろな国の留学生たちと交流でき、楽しい時間を過ごせました。

ツアー当日、大学からバスに乗り込む前にツアーのグループメンバーを覚えてもらい、メンバーをすぐに見つけることができました。メンバーの人たちとは初対面でしたが、おしゃべりしながら楽しく羽田空港へと向かうことができました。

バスの中では彼女たち自身や出身国について聞きました。日本語を勉強し始めてまだ日が浅い学生もいましたが、皆、日本語が上手で驚きました。難しい内容も日本語で一生懸命教えてくれ、感心しました。留学生と日本語で交流することで、異文化への興味が広がり、言語学習の魅力を再確認することができました。

空港ではグループに分かれて観光と食事を楽しみました。留学生たちは「日本らしさへのセンサー」がとても敏感で、私が見落した日本らしいお土産や装飾をすぐに見つけては手に取ったり、写真を撮ったりしていました。留学生たちは日本人が当たり前だと思ってしまう美しさを再発掘

してくれており、人生の豊かを感じさせてくれました。

昼食もそれぞれが日本らしいものを食べましたが、とんかつや唐揚げ、うどん等日本の魅力の多様性に気づかされました。

工場見学では、日本人でも普段は見られない空港の裏側を見学し、貴重な経験ができました。整備中の飛行機や、離着陸する飛行機を間近にすることができ圧倒されました。また、自分の国と結び付けた、留学生ならではの質問をしている人もおり、私一人では学びえなかったことを学びました。

半日という短い時間でしたが、留学生たちと時間を過ごすことで自分が見落としていた日本の魅力や、新しい視点に出会うことができ、楽しさとともに学びを得られたと思います。

このツアーで知り合った人たちとは仲良くなれ、ツアーに参加できて良かったです。これからも留学生が周りにいる、という恵まれた環境でいろいろな留学生と交流していきたいと思いました。

## 5-2 鎌倉ツアー報告

今年の春の鎌倉ツアーは、平成31年3月19日火曜日に行われました。当日は留学生22名、日本人学生3名、幹事7名が参加しました。

現地では、鎌倉市観光協会認定の4名の外国人旅行者向けボランティアガイドの方たちが案内してくれました。また、外語大OBの方も2名参加してくれました。OBの皆さんには、毎年このツアーを支えていただいています。

今年は、午後からグループごとに希望のコースに行くという初めての試みをしました。

朝8時15分に小田急線新宿駅に集合。小田急線で藤沢駅に向かい、江ノ電に乗り換えて長谷駅へ。

と徒歩で高德院へ。そこでボランティアガイドの皆さんと合流し、鎌倉大仏を見学。

再び長谷駅から江ノ電で鎌倉駅に行き、徒歩で鶴岡八幡宮へ。記念撮影後、グループごとに昼食となりました。

午後からはそれぞれの希望により、4つのコースに分かれ、鎌倉を楽しみました。

東コース:日本庭園を楽しむコース

報国寺(竹の庭園で有名) 散策とお茶席→  
浄妙寺(枯山水の庭園)

西コース:お金持ちを目指す(??)コース

銭洗弁天(銭洗水でお金を洗うと、何倍にも増えて戻ってくる!)→佐助稲荷(赤い鳥居がずらり)

南コース:極楽寺&長谷寺

もう一度長谷駅→長谷寺(金色の大仏)→  
極楽寺→極楽寺駅(関東の駅百選)

北コース:古都の雰囲気たっぷり北鎌倉コース

鎌倉駅→北鎌倉駅→円覚寺→明月院→浄  
智寺→東慶寺 など

## 参加した留学生や日本人学生の感想

### (参加者アンケートより)

○私は鎌倉に行くのは初めてではないですが、前に行ったのは江ノ島だから、古都の鎌倉は初めてなんです。最初参加した時は、ちょっと不安な気持ちを持って、同じ研究生の方が少ないのではないかと心配しました。しかし、鎌倉大仏を見学していた途中、同じ研究生の方と会い、仲よくしています。自分は日本文学を研究しますから、幸いなことは、文豪がかつて住んでいた報国寺を訪ねてきていました。

小説の中でしか読んでいないことを体験し、自分と文学の距離がもっと近づいています。最後、留学生支援の会に感謝申し上げたいと思います。

○今回のツアーがとても楽しかったです。私は多磨じゃなく、新宿でみんなと打ち合わせようになって、新宿駅は混雑で、集合場所が分からなくなりましたが、先生方がすごく丁寧に電話で案内してくれました。やっとみんな

など集合できました。鎌倉ツアーで有名な観光地を全部見られて、とても満足でした。ガイドの潮子さんは明るくて、熱心な人でいろいろなことを紹介してくれました。もし今後このような企画があれば、また参加したいです。このようなツアーを通して日本の歴史と文化の見学ができてとても楽しかったです。

○かまくらは初めてなので、行く日まで楽しみにしていました。留学生支援の方は、たま駅から一緒に移動していただいて、安心でした。留学生支援の皆さんだけでなく、ガイドさんの皆さんも鎌倉についてのことを説明していただいてありがとうございました。とくに、素晴らしいスポットがあると、写真を見せながら説明してくれました。日本の歴史にあまり興味がない私でも、今度自分でも調べてみると思います。名物のしらすも食べました。生のしらすは食べられませんでした。おいしかったです。自由時間の時でも心配してくれて、とてもうれしかったです。留学生支援のみなさま、どうもありがとうございました。次のイベントがあったら、是非参加します。

○今回は2回目かまくらに行きました。かまくらは、とてもいい場所です。さくらもたくさんあります。でもまだ咲いていませんから残念です。それに、浄妙寺を見学して、霊園の歴史を勉強になりました。とてもたのしかったです。大学の企画はとてもいい活動だと思います。また今度に参加します。本当にありがとうございました。

○まずは鎌倉ならではの鎌倉大仏に行くことができ、そしてしらすの食べ物も食べることができてとても良かったです。鎌倉と言えば急に現れる鎌倉大仏が外側だけ見られるのではなく、内でも入られて満足でした。しらすの定食もとても美味しく、その中の南瓜

プリンがとっても美味しく有り難いと思いました。また、鶴岡八幡宮も広くとてもきれいでした。そして最後に行った浄明寺も僧堂や石庭を見ることができ、報国寺とその竹の庭も見ることができてとても楽しかったです。

○このツアーを催してくれて、本当にありがとうございます。プログラムやガイドもいいですし、参加費も安い。後者は特に大事だと思います。そしてパンフレットに載っていたコースの情報を次の訪問の時に使います。

○このツアーが良かったです。朝私たち早く起きて電車がかまくらに行きました。着いた後で、大仏を見に行きました。そこで綺麗な写真もとれるし、大仏の中に行けるし、れきしも聞けます。

その後、私たちはレストランに行っておいしい日本料理を食べました。午後、別のじんじゃへ行きました。「RELAX」のためにもいい場所と思います。ツアーが終わった友人とどこでも行けます。特別な電車のカードがあるので、電車に乗るのはむりょうです。

○今回のツアーは今まで一番特別な旅だと思う。大仏を拝見できて、内部も見られて、抹茶体験もできて、それに専門なガイドさんがそばに説明して下さるなどは、ほぼ全部自分で手配できない、味わいの深い、素晴らしいコースでした。

このような遊びながら、いい勉強にもなれるコースを参加できて、すごく楽しかった。本当にありがとうございました。

○鎌倉は、多くの神社などの歴史的な遺産や、海などの豊かな自然環境に恵まれた魅力的な町だと思う。そして、季節や日本文化を感じることができる。どちらも鎌倉の魅力であ

る。さらに、高德院で観光ボランティアガイドから鎌倉大仏の歴史について詳しく説明してもらえるので、楽しく聞くことができる。良い経験になった。このような機会があれば、次回も参加したいと思う。

○（日本人学生）

行きたいところを選ぶことが各自できるのがよかった。寺社はある時間に制限があって、テキパキ巡れるのがすごい大切だと感じた（実際に自分の班は、時間内にうまく進行するのが難しかった）。



### 5-3 [春期バザー]

春期バザーへのご協力  
ありがとうございました

留学生支援の会

今年4月5日、6日に開催した春期バザーには多くの会員、近隣にお住まいの方々から沢山の品物を送っていただき、ありがとうございました。

バザーの収益金は、263,977円でした。

いつもながら毎回、送料もいとわず、様々な品

物を提供して下さった会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくご協力お願いいたします。

## 6 . ホームステイ報告

### ふじのくにツアーについて

キャルビン シャハト (ドイツ) ISEP

2月22日は日本らしい日であった。最初に一緒に食事して、レストランの日本庭を観光した。梅の花びらが咲いたので、うつくしかった。その後、仏教の寺に行ったのであった。ガイドは寺人であったので、その寺の中が見られた。面白かったと思った。その晩に茶道と座禅をしてみた。ちょっと痛かったが、いい経験だった。そして晩御飯としてなべ料理を食べてから、ホストファミリーを知り合った。とてもすてきな人々だった、よく話すことができた。

23日富士山の近くをあるいた。田舎らしい地域であって、静かだし、いい空気があって、すばらしいところでした。昼ご飯の前に、もちの作りに手伝った。そのためとんかちを使って、もちを打ち込んだ。とてもたのしかった。同じ日によく観光もした。白糸の滝や神社や世界遺産に行ってから、ちょっと疲れた。ホストファミリーのお母さんはよく料理を作ってくださったのは本当にたすかった。

24日の帰りのまえ、水族館にいった。イルカのショーもたのしかったし、かえるや魚も面白かったし、大好きだった。特にペンギンはかわいかった。昼ごはんもごちそうさまだった。ホテルで、洋風食べ放題があったのであった。

つまり静かなツアーなのであった。よく面白くて、印象的な場所を観光した。そしてとても日本らしい時間であった。うるさい東京を出たくて、伝統的な日本をみてみたかったら、ふじのくににはおすすめ。

### ふじのくにツアー

アウミヤト (ミャンマー) ISEP

私はミャンマーから昨年の9月に来ました。今東京外国語大学に10か月留学しています。日本はとてもいいです。日本人たちはとても優しいですから。今私静岡にスタディツアーしています。それは学校によって準備されました。最初はお寺に行きました。お坊さんは私たちを静岡の多くの場所に案内してくれました。いろいろな国からの人々が参加しました。彼らはホストファミリーの住む準備をしました。とてもべんりです。私鈴木さんの家に住んでいました。パパとママと呼んだ。家族はとても優しいです。初日にお寺で瞑想しました。二日目に富士山の近くにウォーキングしました。三日目に海に行ってその近くにある沼津港に行きました。後であわしまマリンパークに行つて観光して昼ご飯を Keyaki のレストランで食べました。それからバスに戻って東京に帰りました。そのツアーは楽しかったです。お坊さん達とホストファミリーは優しいし、富士は綺麗です。また行くことを楽しみにしています。





## ふじのくにの留学生ツアーについての感想

王 冉 (オウゼン) (中国) 研究生

今回、留学生支援の会の皆さんのおかげで、二泊三日で富士山をめぐるツアーに参加しました。春休み中で素晴らしい思い出を作りました。

三日間に、長興寺の茶室で抹茶を飲むこと、座禅すること、富士山文化遺産センターを見学すること、淡島でイカルショーを見ること等いろいろな体験をしました。この中で最も印象に残ったのは三つがあります。

一つ目は佐野美術館の庭園で散歩することであると考えています。昔から庭園についてのに興味を持っているため、満開の梅の色に染まった景観を楽しみながら、心を静かにするプロセスが好きです。池を中心に、まわりの木々、石等の要素を巧みに取り入れた工夫もよく見られました。

二つ目は朝霧高原での富士山に向かって歩くイベントです。その日の前に、天気予報によると雨が降るかもしれないそうでしたが、当日バスに乗った後、すぐ太陽が出てきて、快晴になりました。お天気に恵まれたように、一時間ほどかけて富士山をめぐりながら、富士山の美しい姿を楽しむことができました。

最後はホームステイの経験だと言えます。私が泊っている所は大嶽さんという家です。非常にやさしいご家族です。私がさつま芋天ぷらが好きだといって、当日の夕食のテーブルの上にさつま芋料理を見ました。一年ほど家に帰らない私は、あの瞬間で感動して泣きそうになりました。また、大嶽さんは私と一緒にあいさつビデオを撮りました。このビデオは自分の両親に送るため撮ったからです。本当にやさしくて親切なご家族だと思っています。

この度、ホームステイしている間の話し合いから、静岡県は自分の出身地である浙江省と友好提携の関係を持っていることが分かりました。これは確かに縁であると信じています。また、これか

らもこの絆を確かなものとしように、日本と中国が交流している多様な分野で、自分が学んだこと、経験したことをより一層活かしていくように頑張ると願っています。



## 日本のシンボル、富士山を満喫する旅と

### 大切な出会い

イ ウンア (韓国) 教員研修生

私は東京外国語大学で教員研修生として日本語や日本文化を勉強している留学生です。晴天になると学校の寮から遠くに顔を出してくださる富士山を拝見するたびに、「なんて素晴らしい山なんだろう」と感動していました。

2017年9月末来日して一年半の留学生活も終わり、帰国を控えていたところ、去年友達から富士の国ツアーについて大変良かったという話を聞き、今度は絶対逃さないという気持ちで参加することにしました。最初ツアー申込み時は人数制限あり、私以外の友達3人はキャンセル待ちだったので、一緒に行けるかとても不安でしたが、幸いなことに、一緒に行くことができ大切な思い出になりました。

1日目は沼津駅から三島市に移動し、昼食をご

馳走になってから、食堂の裏の庭園を散歩したり、写真を撮ったりしました。ちょうど梅の花が美しく咲いていたので、私達を歓迎してくれるような気がしたのです。その後はお寺に向かうグループとラジオに出演するグループに分かれ、移動しましたが、私は人生で初めてのラジオ出演という素晴らしい経験を得ました。私を含めて4人の留学生がFMラジオボイス・キューに出演し、少々どきどきしながら、楽しく話しました。ラジオ収録の後には、お寺で他のグループと合流し、茶道や座禅を体験しました。体と心を清めることができ非常に良かったと思います。普段の複雑なことやストレスから脱し、一つのことに集中することは新しい自分に出会うことに繋がる大変貴重な経験でした。座禅の体験後は、居酒屋で美味しい料理を食べたり、富士山の歌を一緒に歌ったりして楽しかったです。

その後はいよいよホームステイ！それぞれお寺や一般の家庭に泊まらせていただきましたが、私ともう一人の友達は、田村さんの家に泊まることになりました。



私と友達を家まで案内してくださったお母さんは茶道をなさっている方で、とても優しい人でした。大学の茶道部に入っていた私にとっては、素敵なお縁でありました。夜遅く着いたのに、お風呂に入らせていただき、お茶とお菓子をご馳走になりました。お父さんとお母さんから、ご家族の話や日韓両国の話など、様々なことについて語り合っとても良い1日目の夜を過ごし、ゆったりと眠ることができました。

翌日はいよいよ富士山の日！午前中は朝霧高原で「富士山に向かって歩こう」に参加し、富士山をたっぷりと満喫することができました。お昼は餅つきを楽しんだ後、お昼ごはんをご馳走になりましたが、自分がついた餅をいただき、とても嬉しかったです。その後は、有名な白糸の滝を鑑賞し、ゆっくりと自然に囲まれ、友達と楽しい時間を過ごしました。

それから、富士浅間神社で参拝の仕方を学んだだけでなく、富士世界遺産センターを見学しました。

2日目の夜は、お母さんが手巻き寿司を準備してくださって自分で作って食べてみましたし、お父さんとは一緒に日本酒を楽しみました。日本の家庭文化をたっぷりと味わうことができた、とても素敵な晩ごはんの時間でした。





最終日には、ビューオ展望台で富士山を鑑賞し、あわしまマリンパークでペンギンやユニークな魚などを見たり、イルカショーを鑑賞したり、楽しい時間を過ごしました。

2月22日～24日の三日間、富士の国ツアーに参加させていただき、富士山ウォーキングや白糸の滝鑑賞をはじめ、富士浅間神社参拝、お寺でのお抹茶や座禅の体験、餅つき体験などを通じて多彩な日本の文化を楽しめただけでなく、天気にも恵まれ、素晴らしい富士山を満喫することができました。

何よりも富士山に囲まれている沼津に新しい家族ができたことは一生忘れられない思い出となり、大変嬉しく思います。一人暮らしの長い私

にとって、「ただいま」と言ったら、「おかえり」と返してくれる家族がいるということは非常にありがたいことでした。帰国後、私も韓国を訪れる日本人留学生のために、ホストファミリーになることを考えております。

富士の国ツアーを開催してくださった関係者の方々、大変お世話になり、心から深く感謝しております。また会える日が来るまで、今だけさようなら。

**Thank You!**

ムハンマド ヨムナ (エジプト) ISEP

The good things about this trip was going to the waterfalls and taking pictures there, and of course seeing Fuji-san was a blast. I'm also really grateful for the temple monks that took us in. I had lots of fun talking with them and they were very welcoming.

Thank you for this unforgettable experience.

## ACTIVITIES

大学入学式で  
「支援の会」加入を呼びかけました

4月6日入学式の日、鮎澤会長、勝又副会長と留学生にも協力をいただき、留学生支援の会入会を呼びかけました。

今年は登壇しての説明の機会がなく、当日の加入者が少なかったのが残念でした。

## ご入会・ご寄付、ありがとうございます

### 新規加入者

#### ■一般会員(敬称略)

(平成31年2月1日～令和元年6月6日)

青木誠 赤坂七波 秋場秀俊 浅見清隆  
阿部吉泰 荒木文司貴 五十嵐英雄 井口健一郎  
井口顕一郎 池内豪 池田裕一 石川浩久  
泉信一郎 一村博信 伊藤嘉津美 伊藤史繕  
井上明裕 猪瀬清一 植田紀史  
上田ファーマさくら 鵜飼萌希 内田聡  
内山博 江口由美子 老松久子 大池淳子  
大田史博 大津洋輔 大西奈実 尾形憲吾  
岡本秀史 荻野雅文 貝増匡俊 カズマ莉紗  
加藤三奈 加藤美晴 金村昌樹 川上雄介  
川口修 川村憲人 岸正之 串崎智子  
沓掛真一 久野裕子 熊坂律子 倉内祐子  
栗原優奈 黒澤敏明 小泉順一 河野貴光  
小島澄夫 後藤幸一 小林雅彦 佐々木寛和  
佐々木正克 佐多洸星 佐藤麻緒 佐藤留美子  
三徳一真 三瓶芳則 柴田夕貴子 下田紗英  
新城菜穂子 助川光洋 瀬野正朗 早田博之  
高田光透葉 高橋亜矢子 高橋清 高藤浩  
宝田太郎 田中真由美 田中豊 田中陽子  
田村高幸 塚本泰生 刀禰碧 富永恭右  
外山正志 中野洋子 長野良 七栗隆行  
沼上幹 根本ふみ枝 野口亜依 野村健一郎  
則武透 長谷川真哉 畑下稜 馬場響  
板東則子 久野紀子 秀島鈴 日並加保  
平野弘晴 福井舞子 福島はる奈 藤井誠  
藤井真 藤田誠二 古川翔海 古川晟七  
古川優子 古木真梨乃 HESS(粕谷) 安紀子  
前田力 増川和美 松田健吾 松山知幸  
三尾海斗 森山李鳳 八城星 安田操  
弥永宏太 矢野理恵 山内優実 山田千駿  
山根博彦 山元一郎 米村研史 米山智榮子  
渡邊勇太 和知拓朗

### 寄付者

#### ■一般寄付(敬称略)

(平成31年2月1日～令和元年6月6日)

片岡護 佐藤桂子 田中真由美 野中千恵子  
松本俊 森健祐

※異体字のために正しく表記されない場合がございます。

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせください。印刷できない外字等、ご了承ください。

### 幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成31年4月 1日(日)

令和元年5月12日(日)

令和元年6月16日(日)

## 会員の皆様へ ホームステイ受け入れのお願い

新しく留学生のホームステイを受け入れてみたいとお思いのご家庭がございましたら、下記までご一報ください。登録しておき、希望者がありましたら連絡いたします。

連絡先: 留学生支援の会  
電話: 042-330-5803(午後)

6月6日現在  
会員数: 1,076名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込くださいますようお願い申し上げます。

27年度新入学の会員の皆様は、お納め頂きました4年分の会費の期間が終了致しましたが、引き続きご協力くださいますようお願い致します。

※ ひとりでも多くの方々の納入のご協力を  
お願い致します。

一般会員: 年会費 3,000円

協賛会員: 年会費 20,000円

### お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1  
東京外国語大学 留学生課気付  
留学生支援の会

TEL: 042-330-5803

FAX: 042-330-5189

### (お詫びと訂正)

会報 No.60 において、当会の電話番号に誤りがありました。

正しくは、042-330-5803です。

お詫びして訂正いたします。



# 秋期バザー開催のお知らせとバザー用品ご寄付のお願い

開催：2019年 9月26日(木)～9月27日(金)

※2日目の27日は日本人学生も歓迎します

場所：国際交流会館2号館交流ホール

留学生に毎回大好評の秋期(9月期)バザーのお知らせをいたします。受付期間をご確認の上、バザー用品のご準備、ご手配をお願い申し上げます。

## バザー用品受付期間

9月18日(水)～9月22日(日)

## お送りいただきたい物品

◎各種辞書類など

◎台所用品(小型の鍋、フライパン、電気炊飯器、レンジ、トースターなど)

◎日常生活用品

鏡、タオル、毛布、掛け布団、タオルケットなど(いずれも未使用またはクリーニング済みのもの)

衣類(新品、未使用のもの、クリーニング済みのもの、学生向きの秋・冬物をお願いします)。

食器、電気製品(一人で持ち運び可能なもの)、保存のきく食品など

◎着物類：振袖、男性用袴一式、浴衣、帯、小物類

## 取り扱い中止の品物

諸般の事情により、下記の品物はやむなく取り扱いを中止します。

×敷布団

留学生寮はベッドのため、需要が少ない状況です。また、下記の品物は保管場所がないため、取り扱いを中止します。ご理解のほどお願いします。

×自転車

×大型電気製品 冷蔵庫・洗濯機など

×家具類(一人で運べないもの)

×じゅうたん、こたつ布団

## 送付先

東京外国語大学 留学生課気付 留学生支援の会  
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1  
TEL:042-330-5803(午後)

## 送料

宅配便等で品物をお送りいただく場合には、恐れ入りますが、送料のご負担をお願いいたします。お手数ですが「午後便」をご指定ください。



## JOIN FOR BAZAAR!



※バザー用品の搬入に関する事等お問い合わせ、当日のお手伝い・参加可能な方のお申し出は事前にご下記までお電話下さい。

東京外国語大学 留学生課気付 留学生支援の会  
TEL:042-330-5803(午後)

## WE NEED YOUR HELP!

お願い：バザーの人手が足りません！皆様のご協力をお願いします！バザー用品の品仕分けや、事前準備・後片付けをするご協力をお待ちします。

# 東京外国語大学 留学生支援の会

No.62  
年3回発行

## 会報

Since 1999

会員の皆様、バザー等へのご協力ありがとうございます！  
留学生からの感謝の言葉が多数届いております。

Pick Up  
Event 2019

留学生支援の会の幹事になってくださる方はいらっしゃいませんか  
留学生の笑顔を作る活動です。興味のある方は当会までお電話でお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5803 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

## Contents

Page 1.	1. 巻頭言 東京外国語大学 留学生課長 福井 浩一
Page 2.	2. ご挨拶 留学生支援の会副会長 岡田 昭人
Page 3.	3. 活動報告 3-1 歌舞伎鑑賞教室 3-2 秋季バザー 3-3 学会発表報告（留学生より）
Page 11.	活動速報 これからの活動予定
Page 12.	新会員・ご寄付者報告

## FOCUS

### 1. 巻頭言

日々留学生を支援しています！  
～留学生課のしごと～

東京外国語大学  
留学生課長  
福井 浩一

東京外国語大学の留学生のカテゴリーは多岐にわたる。その中でも、留学生日本語教育センターで受け入れている「国費学部進学予備教育留学生」は、本学で1年間、日本語および基礎科目を履修し、各国立大学の学部に進学するもので、この学生がいるのは全国で本学と大阪大学の2大学のみである。留学生を経費別で区分すると、国費、私費、政府派遣学生となり、課程別で区分すると学部正規生、大学院正規生、研究生、特別聴講学生となる。国費では、さらに先述の学部進学予備教育留学生、大学院進学研究留学生、日本

語・日本文化研修留学生、教員研修留学生がおり、複雑極まりない。

本学での留学生受け入れ数は 2014 年には 639 人であったが、2019 年には 827 人（いずれも 5 月 1 日現在）に増加している。これに夏期・冬期の短期受入プログラム（3～4 週間）で来る外国人学生が合わせて 100 名程度加わる。

留学生の受入に関し、喫緊の課題として次の 3 点が挙げられる。

1. ビザの問題：来日のためのビザ取得のため、留学生に代わり大学が在留資格認定証明書を出入国管理庁に申請している。ところが、昨今の在留管理の厳格化に伴い、在留資格認定証明書の発給およびビザ更新許可がなかなか認められないケースが散見されるようになった。担当職員が理由を聞くため出入国管理庁に出向くこともしばしばある。

2. 宿舎の問題：留学生向け宿舎として国際交流会館があり、その収容人数は次のとおりである。1・2号館（外国人専用、各 231 室）、3号館（外国人 6 割・日本人 4 割の混住型、230 室）。留学生の増加に伴い、希望しても入寮できない留学生が増えている。この状況を少しでも緩和すべく、民間の学生宿舎との契約やホームステイでの受入に向けて検討を進めている。ホームステイの実施にあたっては、ノウハウと経験を有する留学生支援の会と連携を図ってゆきたいと考えているところである。アパートについては、大学周辺の不動産屋や大学生協を通じて紹介してもらっており、契約にあたって必要とされる保証人については、大学が連帯保証をする「東京外国語大学留学生賃貸住宅連帯保証」制度により支援を行っている。

3. 修了生ネットワークの問題：先に述べたように、留学生のカテゴリーが多岐にわたっていることもあり、修了生によっては本学修了生としてのアイデンティティに欠ける者もいる。これまで多くの留学生が本学での学業を修了し、母国または日本、あるいは第三国で活躍しているにも関わらず、本学に関心を示してくれない修了生がいる

のは残念なことである。大学のホームページ、フェイスブックなどを通じて大学の活動を発信しているのはもとより、留学生課でも留学生や修了留学生向けに大学の活動状況等を発信すべく、方策を模索しているところである。

上記課題に対する支援のほか、留学生課では留学生に対し、奨学金に関する諸手続（国費、民間奨学財団への申請）、国際交流会館居住留学生のケア、バディ学生の紹介、留学生見学旅行の実施、入学・修了時のパーティなど、様々な支援を行っている。

ところで、留学生課と聞くと、外国人留学生に関する業務を行うところと思われがちであるが、本学の留学生課は受入留学生のみならず、在籍学生の海外留学（短期・長期留学、交換留学）の支援も行っており、近年の海外派遣留学生の急激な増加に伴い、業務における大きな比重を占めるに至っている。2018 年度は、1,400 人以上の学生が海外留学した。派遣に至るまでの海外協定校との連絡・調整、派遣前の海外安全危機管理講習会、派遣中の安全管理、海外留学のための奨学金（JASSO 等）の申請手続きなどを通じて、多くの学生の海外留学を支援している。

今後、受入留学生、海外派遣留学生ともに、さらなる増加が見込まれており、留学生支援の会をはじめとする関連団体と連携して、学生が快適な留学生生活を過ごせるよう、引き続き支援を行ってゆきたい。

## 2. ご挨拶

### 20 年間の留学生教育を通して思うこと 留学生支援の会

副会長 岡田 昭人

東京外国語大学に新しくこられた留学生の皆さんこんにちは！日本での学修生活はいかがでしょうか。私は留学生支援の会副会長の岡田昭人

です。本学では大学院総合国際学研究院教授を務めております。

さて、私が 1999 年に東外大に着任してから今年でちょうど 20 年の節目になります。それ以来、ISEPTUFS（短期交換留学生教育プログラム）の担当教員として日本文化などについて教えています。当時はおよそ 20 名の留学生からはじまった ISEPTUFS ですが、年を追うごとに 50 名、やがて 100 名をこえるまでになりました！このプログラムの特徴は、留学生と日本人学生が一つの教室で、英語（または日本語）で授業を受けていて、主にディスカッションや共同発表などを通じて学習をすること（通称 IJ 共学）です。教員が一方的に講義をするといった従来の日本の大学教育とはまったく違った新しい時代のプログラムとして開始されました。

ISEPTUFS には多様な言葉や文化背景を持つ世界各国から集まった留学生が参加しているので、毎日の授業はとても刺激的です！英語を使用する授業が多く開講されているため、特に欧米圏からの留学生はイキイキと発言をする一方で、どうしても日本人学生は消極的な姿勢になってしまいがちです。本プログラムの教員の重要な課題はどのようにすれば日本学生が積極的に発言し、また留学生たちと交流することができるようになるか、そうした授業づくりです。残念ながらこの課題は現在も進行中であると考えられます。

留学生の教育を担当していると良きも悪きも想定外の状況に直面します。私が教え始めた頃のエピソードですが、日本語の授業が終わった後クラスの留学生数名が真剣な顔をして研究室にやってきました。彼らが言うには「先生は授業中、私達をばかにしている！」というのです。「とんでもない！」と弁明したところ、彼らは「先生は私たちが日本語を間違えると笑うでしょう・・・」と一言。これは日本人と他の国々の人々の間で生じる非言語コミュニケーション（NVC）のコンフリクトでしょう。私は留学生の日本語の間違いを笑っていたのではなく、「授業中はできるだけ笑

顔でいよう」心がけていただけだったのです。

こうした NVC の誤解は学生間でもよくみられます。特に中国の女子留学生は「日本人の女子学生は親しくなっても一緒に歩く時に手をつないでくれない」と不満を言っております。このように日本人が普段はまったく意識していない言動が留学生に不可解な感情を持たせてしまうことがよくあるのです。

こうした 20 年にわたる留学生教育を通じて私が感じているのは、毎日が異文化コミュニケーションの実践だということです。実際に留学生と交流することで、日本文化の特殊性に気付く、コミュニケーションの仕方の違いを体験することができるのです。

東京外国語大学にはたくさんの留学生が在籍していて、学生や教員をはじめできるだけ多くの日本人との交流を望んでいます。留学生支援の会には老若男女を問わず一般の方々が参加していて日々文化紹介などの取り組みをしています。

留学生の皆さん、1 年間はあっという間に過ぎてしまいます！ぜひ支援の会にも遊びに来てください。そして授業では学ぶことのできない、日本人との「生きた」コミュニケーションを体験して下さい。そうすれば自然と相互理解が深まっていくと思います。

## REPORT

### 3. 活動報告

#### 3-1 歌舞伎鑑賞教室

昨年も大変好評だった歌舞伎鑑賞教室を今年も開催しました。

##### 1. 実施内容

6月2日(日) 13:30~18:00

参加者：留学生 44名 日本人学生4名  
幹事 7名 計55名

参加幹事(敬称略):勝又(副会長)、井上、木全(御夫妻)、山田(恵)、山元(体験参加)、中村



<当日の流れ>

- 13:45 国立劇場入口集合
- 14:30 ~ 15:00 「歌舞伎の見方」  
解説：中村虎之介
- 15:15 ~ 16:40  
歌舞伎『神霊矢口渡』鑑賞
- 17:00 ~ 18:00 別室にて懇親茶話会  
(白玉あんみつ+日本茶、その後コーヒーまたは紅茶)
- 18:00 現地解散



II. 要素ごとの個別報告

<参加者募集>

例年の定例行事であり、特に大きな問題はなく進捗。企画の情報を日本語・英語で留学生課のご協力で掲示したが、当方が作成したポスターの文字フォントが小さく、他との比較で目立たなかったのが、次回への反省としたい。なお、募集受付開始当日に早くも募集定員(留学生40名)のほぼ半数(19名))にも達したが、これは前日同じく留学生課から留学生全員へ一斉メールを流していただいたお陰であり、深く感謝するとともに今後ともぜひお願いしていきたい。最終的

には留学生の応募が予定を超過してキャンセル待ちが多数に及んだため、急遽5名分を追加して希望を叶えるべく対応した。

<当日現地集合・受付>

13:20の幹事集合後、劇場に予め準備いただいた受付用テーブル、「東京外国語大学 留学生支援の会」という旗をセットして 13:45からの受付に備えたが、留学生の集合は順調。14:20には幹事もどもも会場内へ。

<歌舞伎鑑賞>

1) 「歌舞伎の見方」解説：中村虎之介

毎回若手役者による解説が行われ、留学生が英語オーディオフォンによる解説でどの程度理解できたのか、気になるところであるが、アンケート結果ではこの冒頭の解説が有効であったようだ。なお、今回は冒頭にポップな音楽を流して若者の歓心を買う試みがあったが、個人的には却って日本伝統行事たる歌舞伎のイメージを損なうように感じられた。



2) 歌舞伎『神霊矢口渡』鑑賞

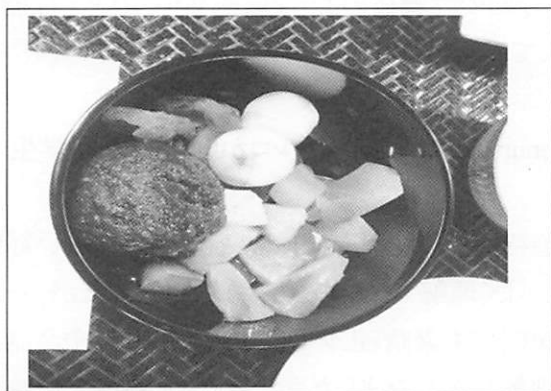
渡し守頓兵衛役を中村鴈治郎、その娘お舟役を中村壱太郎が務める「頓兵衛住家の場」の一幕を鑑賞したが、さほど複雑な状況や人間関係を描いたものではなかったものの、留学生にとってはいかがか？ 女形という歌舞伎特有



の役割を演じた中村壺太郎の色気が会場を満たし、素顔とは似ても似つかぬ鴈治郎の迫力ある老渡し守役ともども、大いに堪能できたであろう。ただ、実際に複数の留学生に質問すると、「ガイドフォンが会話の逐語訳ではなく、今どのような場面であるかという“状況解説”だったので、十分には理解できなかった」という声があった。映画と異なり、歌舞伎というライブ演劇の言語ガイドとしてはこれが限界であろう。

### <懇親茶話会>

以前実施していた近隣ホテルカフェでのケーキ+喫茶による懇親茶話会を、昨年からは国立劇場内での会合に切り換えたが、今年はさらにスイーツを和風(白玉あんみつ)として日本の伝統芸能鑑賞に合わせてみた。当劇場内の和風カフェ自家製であったせいか、味・ボリュームともに期待を裏切らず、留学生にも和風スイーツを堪能して貰えたようだ。



## Ⅲ. 総括と次回への課題

### 1- 企画の意義

日本伝統文化紹介企画の一環として定例化している「歌舞伎鑑賞」は、留学生として日本に滞在するからこそ得られる貴重な機会であり、本企画の意義は大きいものがある。今後とも継続することが望ましいと考えるが、対象演劇として常時歌舞伎を選択するのか、それとも時には他にも発展させるかは今後の検討課題としたい。(個人的には、留学生の日本滞在期間が1年というケースが多く、したがって「ベースは歌舞伎、ときに

他の演劇」ということでいかがかと思う)。

### 2- 開催日時選択

今回、観劇終了後の茶話会には参加してくれたものの、3名がラマダン期間であるがゆえに飲食を遠慮した。予め日時を決める際に十分考慮しておく必要があり、次回は是非とも全員に美味しいスイーツを堪能してほしいものである(3人には別途和菓子を土産として手渡し、ラマダン明けに賞味してもらった)。

(幹事:中村)



## 歌舞伎鑑賞教室の感想

今回は一部の参加者だけに依頼するのではなく、全員に下記の質問をして率直な感想を伺いました。

1. 本日の公演に対する感想・意見(特に興味深かったこと)
2. 歌舞伎について、理解が困難であったこと(会話、ストーリー、社会・文化背景等)
3. 「日本伝統体験」に関し、留学生支援の会に期待したいこと

ここでは、数名の方のご意見を紹介しますが、終了直後に現地でもいただいた感想ですので英語でのコメントが多く、当方の責任でできるだけ忠実に日本語にしました。

Enrica Concas                      イタリアからの ISEP  
(International Student Exchange Program) 留学生

歌舞伎を観るのは今回が初めてでしたが、とても興味深くで魅惑的なパフォーマンスでした。今回のストーリーや全体の流れについては英語のオーディオガイドのおかげでよく把握できましたが、会話そのものはまるで日本語の歌のように話されていました

ので、私にはとても難しく理解できませんでした。今後とも今回の歌舞伎のような伝統文化、たとえば能を鑑賞してみたいです。

Gokcenur Guner                      トルコからの ISEP 留学生

何か特別なものを鑑賞することは、素晴らしい経験でした。よく理解できないことも多くありましたが、それも含めてとても素晴らしい内容でした。口上や会話はやや理解に苦しみましたが、おそらく私が江戸時代の文化的な背景を良く知らなかったことが理由だと思います。今後、ぜひ能鑑賞に連れて行っていただきたいです。

Anastasia Rubleva                      ロシアからの ISEP 留学生

私は歌舞伎に魅了され、常にロシアの観劇スタイルと比べながら観ていました。両者はとても異なっていますが、私は観劇を楽しめました。日本の演劇や演技スタイルは私が普段見慣れているものとは随分違いますが、私は大いにこれをエンジョイしました。私は留学生支援の会を気に入っていますが、一日の行程の中で参加者にもう少し自由度を与えてください

ばありがたいです。

#### Alexa Sporleder      ドイツからの ISEP 留学生

とても楽しく観劇しましたが、特に話者の話し方に魅了されました。また、ofune-san(註:中村壺太郎が演ずる娘「お舟」)の操り人形のような舞踏はとても独特のもので、美しかったです。私自身の能力不足が原因で、会話についていくことには問題がありましたが、それでもオーディオガイドでかなり助けられました。会話部分に関しては、ひらがなだけで記したガイドがあればいいかなと思います。今後ですが、歌舞伎についてはぜひずっと続けてください。交換留学生は少なくとも一度は歌舞伎鑑賞を経験すべきであると考えます。

#### Kyomi Kawasaki Salvador      メキシコからの日研生(日本語・日本文化研修留学生)

伝統と日本文化を観るといって忘れられない経験でした。私にとって、これは日本での今回の国際交流の中で最高の文化体験のひとつとなりました。本当に感動しました。歌舞伎で役者が使う語彙は理解することが難しいですが、冒頭セッションでの歌舞伎に関する説明とオーディオガイドがとても役立ちました。「日本伝統体験」は本当に素晴らしい経験となります。今回の忘れがたい体験に対し、留学生支援の会に心から感謝します。

#### Edanur Adalioglu      トルコからの ISEP 留学生

歌舞伎にはとても興味があって、劇場に来る前から楽しみにしていました。歌舞伎を実際にライブで観られるなんて、思ってもいませんでした。それは私が今までに観た演劇とはとても違ったものであり、すっかり魅了されてしまいましたし、大いに楽しめました。英語のオーディオガイドで聴きましたが、翻訳言語によるガイドですので完全には同期しておらず、また実際の会話を忠実に説明していませんので、フォローするのが難しく感じました。ただ、話の流れはよく理解できました。今後ですが、歌舞伎鑑賞については毎年行うべき素晴らしいイベントであると思いますし、また現在も続く日本文化という意味では、生け花、茶

会等も提案します。

#### Kim Albert Dumanon      フィリピンからの日研生

とても印象的でした。私にとって歌舞伎を劇場でライブで観るというのは初めてでしたが、ビデオで見ると対して遥かに興味深かったです。本当にありがとうございました。オーディオガイドは時々実際の会話と同期していないことがあって、そういう時は理解が難しかったです。今後、能、文楽、落語等の公演に出かけて行って、実際に観てみたいです。

#### Khitrova Yulia      ロシアからの ISEP 留学生

歌舞伎はヨーロッパの伝統演劇とは非常に違っていますが、そのことが面白くて興味をかきたててくれます。会話表現や舞踏(特に、Ofune(お舟)と Tonbei(頓兵衛))は面白いだけでなく、ユーモアも感じました。話の流れは理解できましたが、私の日本語能力では会話まで理解することは難しかったです。オーディオガイドの英語解説はやや weird(不可思議、不自然)であり、観客が見ていけば自ずと分かることを説明する一方で、会話の翻訳はしていませんでした。今後についてですが、日本の歴史的風景や演劇を訪れたり、また興味深い場所に出かけたりしてみたいです。



\* 幹事長の着物の柄にご注目！



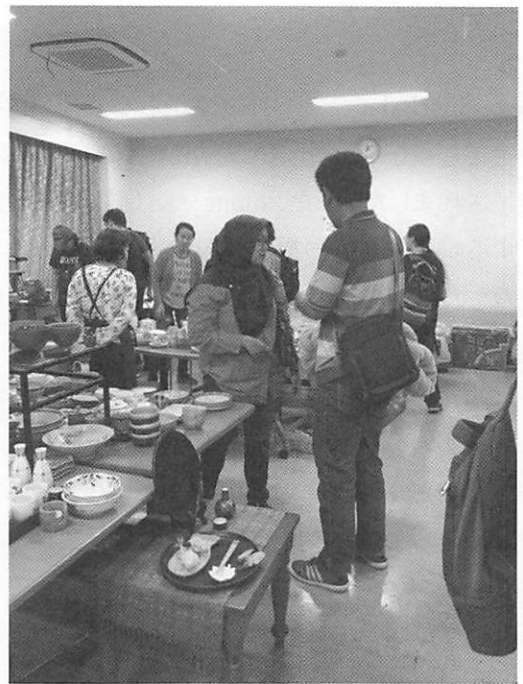
### 3-2 秋季バザー

令和元年9月26日(木)～27日(金)  
場所 国際交流会館2号館交流ホール  
来場者 留学生約200名  
バザーの収益金は、178,000円でした。

恒例の秋季バザーは、この時期海外からやって来る留学生の生活支援の一環として開催しています。日本で新たに始める生活に役立つ食器、小型電気製品、衣類、寝具等広く会員の皆様、近隣の皆様にご寄付いただいたものを低価格で販売し、留学生に大変喜ばれています。売り上げは活動資金に繰り入れ、留学生を対象とした歌舞伎鑑賞教室、工場見学等さまざまな活動に有効に活用させていただいています。今回は、留学生の秋入学オリエンテーションの日程に合わせて開催しました。多くの留学生が来てくれました。

今回は、台所用品(鍋、フライパン等)が少なく、あっという間に売り切れとなってしまいました。次回は会員の皆様へのお願いの仕方をさらに工夫したいと思います。

いつもながら毎回、送料もいとわず、様々な品物を提供して下さった会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくご協力お願いいたします。



\*食器の上の天ぷら(食品サンプル)も会員の作品です。日本のこのようなユニークな技術も紹介しています!

### 3-3 学会発表報告

留学生支援の会では、海外の学会で発表する留学生に1人5万円、国内の学会で発表する場合は1人2万円を支給しています。

今回支給した留学生より報告が届きました。

東京外国語大学大学院  
博士後期課程  
車 魯明(しゃ ろめい)

学会：漢日対照言語学研究(協力)会  
場所：西安外国語大学日本文化経済学院  
発表日：2019年8月24日(土)

テーマ：日本語における無生物主語他動詞文が許容される条件について

—自動詞述語文に相当する場合—

要旨：本発表は、日本語における無生物主語他動詞文が許容される諸条件の一つ、目的語名詞と述語他動詞との組み合わせが意味的に自動詞(あるいは名詞)に相当するもの、或いは文全体が意味的に自動詞文に相当するもの

という条件を提示し、その組み合わせの性質及びこのタイプの無生物主語他動詞文の性質について考察することを目的とする。事例の分析から出発し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)のアプリケーション「中納言」(通常版)を利用して無生物主語他動詞文の実例を抽出し、考察を行った。

その結果、次の二つのことがいえる。一つは、主語名詞の関与があるかどうかは無生物主語他動詞文の成立にあまり影響を与えないものである。この場合、目的語名詞と述語他動詞との組み合わせが自動詞、あるいは名詞に相当すると認められれば、無生物名詞でも主語の位置に現れるということである。もう一つは、主語名詞と目的語名詞との意味関係も考えなければならないものである。

この場合の無生物主語他動詞文には「位置関係」あるいは「全体部分関係」を表すという特徴がみられる。

コメント：盛文忠

(上海外国語大学日本文化経済学院 教授)

- ・その他の許容条件を明示すること
- ・中国語との対照に触れること

膝夢激 (トウムビ)

私の研究課題である「三島由紀夫文学におけるディオニュソス」を進め、段階的な成果を出すため、2019年8月22日から8月24日まで、韓国・ソウルで国際学会に参加し、派遣されました。韓国日本学会は韓国で最も大きな日本研究の学会で、長い歴史を持ち、今度の第99回がソウルの淑明女子大で開催されました。大会では、開幕式・貴重発表・共同パネル・次世代パネルなどの企画が用意されて、韓国・日本の専門家と若手研究者が集まって、日本の政治、歴史、文学など各領域の課題をめぐって活発な議論が展開されました。

当日、私は『岬にての物語』における死の勝利』を題にして、『岬にての物語』という三島が戦中から戦後へと転換する時期の代表作を取り上げ、『死の勝利』におけるダヌンツィオとニーチェとの距離に注目して三島のダヌンツィオ受容を考察しました。更に、作品に描かれる「遊戯」に着目し、作品中で担う機能を明白にすることによって、それは死と再生の通

過儀礼の構造における一環となるもので、戦争の死に拒まれ、戦後社会とは相容れず、通過儀礼としての境界的な時間の象徴なのであることを明らかにしました。その後、他の先生や研究者と交流し、指導や刺激を受けられました。

また、自分の発表以外、他の研究者の発表を聴講しました。その中、日本の研究者が、「中原中也と尹東柱——「私」の描き方」を題にして発表し、2人の詩人を取り上げて日韓比較を行いました。また、韓国の研究者が村上春樹『1973年のピンボール』について発表し、この作品における「僕」の時間感覚の混乱とシミュラクルを考察しました。日本文学以外、日本の社会歴史や文化思想などに関する発表も充実し、自分はその後、発表者と交流しました。

今度の派遣の成果として、主に以下の2点があげられます。1、国際学会に参加することによって、『岬にての物語』における死の勝利』というテーマで発表し、三島がダヌンツィオへの転向した点こそが、自身の過渡期にある三島の心理をよく表しているもので、死と再生の構造が持つ隠れ坊は、戦中と戦後を通過する際の一種の儀礼的意味を持ち、遊び相手の死によって未完で終止させられた点は、戦争の死に拒まれて戦後社会とはならず、通過儀礼としての境界的な時間に彷徨する三島の象徴であるという自分の研究成果を出しました。また、他の研究者たちと意見交換でき、指摘を受けられました。2、学会に参加するのをきっかけにして、他の研究者の発表を聴講し、三島や日本文学、ないし日本の社会歴史や文化思想など、日本研究各分野の海外研究者と交流することができました。

東京外国語大学大学院  
博士後期課程  
解放

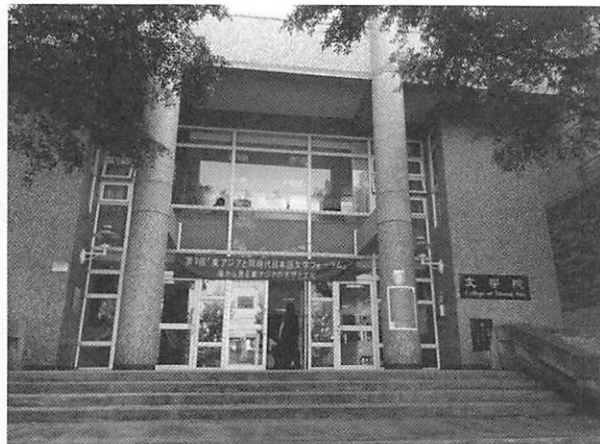
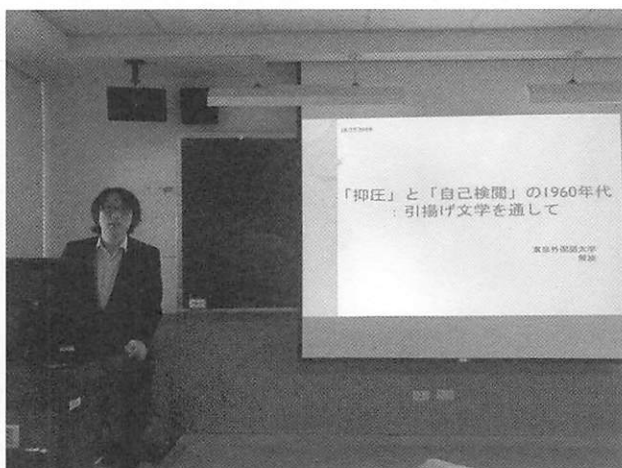
この度は、東京外国語大学留学生支援の会の助成金を受けて、「東アジアと同時代日本語文学フォーラム第7回台北大会」(2019年10月25日-27日、台北)で口頭発表をしてきました。心から感謝申し上げます。

この「東アジアと同時代日本語文学フォーラム」は、東アジアという視座を持ち、韓国・中国・台湾・日本・香港の日本研究者が集まり、それぞれの国における日本近代文学体験の特殊性および歴史性を互いに比較しながら研究の地平を拓き、日本近代文学を東アジアの観点

から再構築する企画です。今回の第7回台北大会も、日本や中国、韓国、台湾、香港などの国や地域からの研究者が集まり、様々なテーマの研究発表が行われ、盛大な大会となりました。

この大会は近代文学の分野で日本でも名のあたる大会であり、ぜひこの大会に参加して自分の研究をこの場で発表してみたいと以前から思っていました。しかし、この大会は韓国など海外で開催されることが多く、参加したいけれど、経済的な理由でやむを得ず諦めることが何回もありました。

この大会が今年度も開催されるというお知らせを受け、今年こそ参加するぞと思いました。旅費に悩まされるうちに、留学生支援の会の助成金を受けることができるという旨の返信が来て、大喜びをしました。この大会に参加できたのは、すべて留学生支援の会のお陰です。私は大会初日の25日に「抑圧」と「自己検閲」の1960年代：引揚げ文学を通して」というテーマで口頭発表をし、その後いくつかの質問やコメントを受けました。いずれも非常に有益な指摘であり、自分自身の研究をさらに深めることが予想されます。この大会では、私自身の研究を発表し、有益な指摘を受けるだけでなく、他の研究者の発表を聞くことを通して、研究の視野を広げたり、研究者との交流を通じて貴重な情報を受けたり、研究者とのネットワークを構築することなど、様々な面で貴重な体験をさせていただきました。改めて感謝いたします。ありがとうございました。



## 日本語教育方法研究会の参加記

### — 第53回大会・於福島大学 —

東京外国語大学大学院 総合国際学研究所  
博士後期課程1年  
ファム・ティ・タイン・タオ

日本語教育方法研究会 (Japanese Language Education Methods) は毎年2回 (9月と3月) に開催されている学会です。今回の会場は福島大学です。開催日は9月14日 (土) でした。

東京からかなり離れている福島大学キャンパスまで新幹線で2時間半ぐらいかかりました。当日東京から出発しますので、発表時間帯は午後となっております。

学会全体では発表形式はポスター発表ですが、口頭発表としても選ばれています。そのため、ポスターとプレゼンテーションの両方を用意しています。今回の発表テーマは「ベトナム人向けの日本語複合動詞教育」です。日本語の複合動詞は、頻度数の高い「～込む」「～上げる／上がる」「～出す」といった複合動詞が、移動事象から状態変化への意味拡張を起こし、アスペクトを表すという点で特徴的です。本発表では、日本語とベトナム語の両言語間における移動・状態変化を表す複合動詞を比較し、日本語教育における複合動詞教授法を考案するという目的を設定しています。

福島県金谷川駅から10分ほど歩いて福島大学という発表会場に着きました。受付の手続きを済ませ、口頭発表 (M講義室) とポスター発表 (S講義室) の場所に移動し、午前部の発表を聞きました。昼ごはんは他の発表者と交流しながら過ご

しました。昼食後は口頭発表用のスライドの準備とポスターの貼付の時間です。

口頭発表は当日午後2:30分から始まり、このセッションではポスター発表の中では5名しか選ばれていません。自分の発表は3番目でした。終了後、すぐ次のポスターセッションに移動しました。発表を聞いてくださった方々から貴重なコメントや意見をいただきました。帰宅後反省させていただき、これからの投稿論文や研究方向に大変役に立つと思っています。他にも初耳の専門用語が勉強になり、素敵な人々と出会い、本当に充実した一日を過ごすことができました。

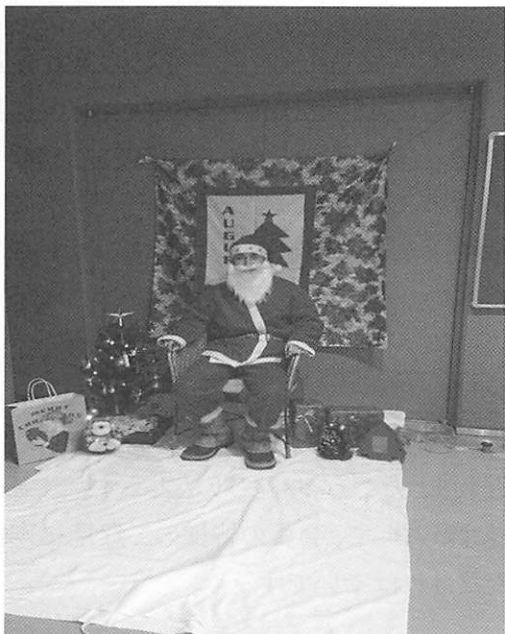
今回学会発表をした留学生の皆さん、ご報告ありがとうございました。

留学生支援の会では、引き続き、留学生の学びを支援してまいります。

## 活動速報(外語祭バザー)

会員の皆様より、春季・秋季と2回実施している恒例のバザーにご寄付いただいた品物を有効に活用し、留学生に喜んでもらえる活動を広げるため、外語祭でもバザーを実施しています。

今年度も11月22日(金)～24日(日)の3日間、開催しました。ご寄付いただいた品物のほか、クリスマスにふさわしい、楽しいグッズも多数販売しています。詳しくは次号でご報告いたします!



\*このサンタは誰かな?\*



## これからの活動予定

★江戸情緒を訪ねる『川越ツアー』

とき：12月8日(日)

9時20分 国分寺駅集合

江戸情緒あふれる川越の街を散策します。留学生の皆さんに楽しんでいただけるよう、担当幹事一同準備を進めています。

ツアーの様子は次の会報でご紹介します!

## ご入会・ご寄付、ありがとうございます

### 新しく加入していただいた方

#### ■一般会員(敬称略)

(令和元年6月7日～令和元年11月9日)

中瀬幸恵 岩波将之

### ご寄付をいただいた方

#### ■一般寄付(敬称略)

(令和元年6月7日～令和元年11月9日)

鮎澤孝子 安藤浩行 五十幡圭右 板久恭子  
井上東一・久美子 大塚定 大谷達之  
河野喜代子 北尾隆昭 北村みどり 挙市玲子  
小島照恵 佐藤桂子 新堂睦子 菅原恵美子  
鈴木文子 関口洋子 寺田朗子 疋田妙子  
星野隆 本望春夫 森健祐 矢部美保 山岸隆夫

※異体字のために正しく表記されない場合がございます。

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせください。印刷できない外字等ご了承ください。

11月9日現在  
会員数：1,071名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込みくださいますようお願いいたします。

平成27年度新入学の会員の皆様は、お納め頂きました4年分の会費の期間が終了致しましたが、引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

※ ひとりでも多くの方々の納入のご協力をお願いいたします。

一般会員：年会費 3,000円

協賛会員：年会費 20,000円

## 幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

令和元年 7月14日(日)

令和元年 9月15日(日)

令和元年10月20日(日)

令和元年11月17日(日)

### 会員の皆様へ

### ホームステイ受け入れのお願い

新しく留学生のホームステイを受け入れてみたいとお思いのご家庭がございましたら、下記までご一報ください。登録しておき、希望者がありましたら連絡いたします。

連絡先：留学生支援の会

電話：042-330-5803(午後)

### お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 留学生課気付

留学生支援の会

TEL：042-330-5803

FAX：042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

留学生支援の会のフェイスブックでも、活動予定等ご紹介しています。ぜひご覧ください。

### 編集担当より

編集担当者が交代し、何かと行き届きませず、発行が遅れましたことをお詫びいたします。

編集に際しまして、会員の皆様のご意見・ご要望等いただければ幸いです。

©Copyright 2019, TUFUS International Student Support Association



# 東京外国語大学 留学生支援の会

No.63  
年3回発行

## 会報

Since 1999

【お知らせ】春のバザーは中止となりました

毎回留学生から大好評のバザーですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止といたします。ご理解のほどお願い申し上げます。

Pick Up  
Event 2020

留学生支援の会の活動に参加してみませんか？

留学生と楽しく交流してみませんか？興味のある方は当会までお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-2 東京外国語大学留学生支援の会 TEL 042-330-5803 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

## Contents

Page 1.	1. 巻頭言 東京外国語大学副学長 (国際等担当) 松隈 潤
Page 2.	2. 留学生支援の会 20 周年 特別寄稿 留学生支援の会の歩み —設立してから 20 年が経ちました— 留学生支援の会顧問 (前副会長) 笹岡 太一
Page 4.	3. 活動報告 3-1 「小江戸」川越文化体験ツアー報告 3-2 外語祭バザー報告 3-3 福生 (ふっさ) 西洋と日本の飲食 競演ツアー報告 3-4 学会発表報告
Page 18.	ご寄付御礼 会員数報告 ほか

## FOCUS

### 1. 巻頭言

#### 留学生の皆さんへ

東京外国語大学副学長(国際等担当)  
松隈 潤

留学生の皆さん、こんにちは。私は東京外国語大学の国際等担当副学長の松隈潤です。

世界各国から、留学先として本学を選んでいただき、ありがとうございます。皆さんをお迎えすることができ、大変嬉しく思っております。

現在、本学には世界の 80 以上の国と地域から、800 名を超える留学生の皆さんに来ていただいております。日本からの留学派遣数も 1200 名を超えており、相互交流が活発に行われています。

さて、東京外国語大学について、簡単に紹介し

たいと思います。

本学の起源は、日本が近代化の道を歩み始めた19世紀後半にさかのぼります。ですから、2023年に本学は創立150周年を迎えます。

現在、本学では語学力に優れ、世界の文化や社会について深い知識を持つ学生たちの育成を目指しています。このため、本学は以下の3つの点を重視しています。

第一に、教育面では、複数の言語に精通し、グローバル・マインドを有する人材の育成を目指しています。現在、本学は28の主専攻語を教えています。これに加えて主専攻語以外の47言語についても学ぶことができます。また、本学は国際学術交流協定の締結を積極的に推進しており、世界中の交流協定機関と連携した教育の実現を目指しています。現在、本学は世界の72か国・地域に215の交流協定機関を有しており、特にダブル・ディグリー・プログラムの開発、海外留学の促進、留学生の皆さんと日本人学生の共学体制の確立など、交流協定機関との共同教育の推進に取り組んでいます。

第二に、研究については、本学は現在、「多文化共生」をキーワードに、大学全体の研究活動の特徴や成果を可視化することに注力しております。同時に、研究の国際化にも力を入れており、アジア・アフリカ言語文化研究所、南アジア研究センター、現代アフリカ地域研究センター、国際日本研究センター等が国際的に実施している各種共同研究を拡充し、強化しています。

第三は社会貢献ですが、本学は「多文化共生」の視点に立った社会貢献の充実を目指しています。このため、「多言語多文化共生センター」を設置し、社会貢献活動を効果的・効率的に推進しています。具体的には、留学生の皆さんへの教育支援、地方自治体や企業との連携等、社会が求める社会貢献事業の展開、世界各地の情報発信、新た

な国際協力事業の展開などが含まれております。

以上の3つの側面、とくに本学が重視している「多文化共生」の観点から、留学生の皆さんの存在は本学にとって本当に貴重なものとなっております。私は留学というかたちでの相互交流はとても重要だと思えます。とくに、皆さんそれぞれの出身国・地域と日本は、いずれも教育・研究レベルが高く、今後、共同研究や学生交流等において、さらに緊密な協力関係を築く余地が十分にあると考えています。皆さんの留学による相互交流は、そのような協力関係を一層発展させる契機となるものと考えております。

最後に私のささやかな在外研究の経験について述べたいと思います。私は大学の教員になってから、30代の時に米国のタフツ大学フレッチャー法律外交大学院と英国のケンブリッジ大学国際学術研究センターに客員研究員として滞在しました。また、40代および50代の時には、米国のジョージタウン大学国際経済法研究所とドイツのマックス・プランク比較公法・国際法研究所にやはり客員研究員として滞在する機会がありました。

現在、私が国際法学の研究者として、また教育者として研究、教育に携わるうえで、そのような在外研究で得た知見はその基盤となっております。また、国際等担当副学長として国際交流等の実務に携わる際にも、在外研究で得た人的な交流が大変役立っております。

皆さんが留学という貴重な経験を今後の人生の中で大いに活かしていくことができるよう祈念しております。

## 2. 留学生支援の会 20周年記念特別寄稿

留学生支援の会は、1999年に設立され、会員の皆様のご支援のもと、昨年2019年に設立20周年を迎えることができました。

今回その歩みを皆様にご紹介いたしたく、前副会長の笹岡太一氏より特別寄稿をいただきました。

## 留学生支援の会の歩み

### —設立してから 20 年が経ちました—

留学生支援の会顧問 (前副会長)

笹岡 太一

#### 1. 留学生支援の会の設立は中嶋学長が提案されました

今から 20 年前の 1999 年 3 月、当時の中嶋嶺雄学長が、「東京外語会会報」誌に、「東京外国語大学留学生支援の会 (仮称) 設立に関するお願い」という提案を寄稿されました。そして、その趣旨として全世界から留学生を受け入れている本学は、異文化交流の空間であり、充実した学業や研鑽のため、多くの支援活動や相互交流が必要であると述べられました。

これを受けて、嶺雄氏の奥様でもある中嶋洋子氏が発起人となってボランティアを募りましたところ、とりあえず 11 の方が賛同され、6 月 12 日に最初の会議が開かれ、留学生支援の会が設立されました。この会議は幹事会と称し、11 の方が幹事となり、幹事会で事業の企画・実施を行うことになりました。会報第 1 号の発刊の 9 月には 3 名の加入があり、14 名の幹事会事務組織が確立しました。

会長 (幹事) : 中嶋洋子

副会長 (幹事) 笹岡太一

顧問 : 鮎澤孝子 (教官) 石井和子 (教官) 宇根祥夫 (教官) 望月圭子 (教官)

留学生課 : 鈴木文子 (課長) 梅田由美子 (職員)

幹事 : 黒田隆、西岡輝純、石川和子、小林佐智子、子熊利恵、小林洋子

これ以降、幹事・留学生課の方は随時辞められました。新しい方に加わっていただき、今日に至っています。現在の会長は鮎澤孝子氏、副会長は勝又美智雄氏ほか幹事も 20 名を超えております (お名前は紙面の都合で割愛しました)。

#### 2. 留学生支援の会は会員によって支持されています

留学生支援の会は、初めての試みですから、その意義を理解し、会費負担してくださる方に、会員になっていただかなければなりません。特に経費支出は基本財産とか補助金とかありませんので、会員からの会費収入 (年額 3,000 円) で賄うほかありません。そこで支援の会発足直後のことですが、東京外語会の総会が開かれることを知り、当日 (1999 年 6 月 26 日) 中嶋会長が席をお借りして、支援の会への入会をお願いしたところ 39 名の方が入会され、会費収入 184,000 円をいただき、大変ありがたく思いました。

その後、東京外語会には、何度か入会をお願いするとともに、教職員方にもお願いした結果、留学の意義についてご理解いただき、かなり多くの方に入会していただき、感謝しております。

また、2010 年からは、大学事務局の協力により、大学新入生へも留学生支援の会の案内が送られるようになり、将来の留学についての関心を持たれたこともあって、多くの方 (主に父兄の方) に入会していただき、感謝いたしております。

さらに、本学近辺在住者あるいは本学に関心を持たれる等、限られた方ですが、入会された方もおられ、貴重な会員方と思っております。

以上の方々の人数は、年度によって多少の違いはありますが、近年は 1,000 人から 1,200 人はおられます。この方々が、留学生支援の会の意義を理解し、会費を負担していただくことにより、留学生支援の会は支持されているわけです。

#### 3. 留学生支援の会は多彩な支援・交流事業を実施

留学生支援の会は、会が設立されてから、毎月幹事会を開き、ボランティアの幹事方が、

知恵をしぼって、支援活動・相互交流活動等の具体的事業計画を作成し、その実施を担ってられました。留学生支援の会の活動ぶりが明らかになると思いますので、この20年間に実施してきた主な事業の目的と事業項目を一覧にまとめてみました。

目的	事業項目	
生活支援	生活用品バザーを開催（春・秋） 学会発表のための旅費助成金を支給 緊急貸付金を貸与	
友好親善	留学生・日本人学生の国際交流会を開催（大学との共催） ホームステイ「ふじのくにツアー」に参加（会員主催）	
日本理解	見学	国立劇場歌舞伎、江戸東京博物館、国技館大相撲、工場、羽田空港（JAL整備場）
	ツアー	古都鎌倉 東京下町（浅草・両国）川越江戸文化
	体験・学習	日本語、華道、茶道、書道、囲碁、将棋
国際理解	各国のお茶とお菓子を紹介 小・中・高校の国際理解教育へ留学生を派遣	

これらの事業項目のうち留学生課や先生方のご意見もうかがって留学生の要望をとらえ、留学生支援の会発足早々の年に、最初の生活用品バザーの開催と古都鎌倉ツアーを実施いたしました。それ以後年次とともに経験を積み、多彩な支援・交流委事業を展開することになりました。

経費についてはすでに述べましたように会員の方々のご協力によります。また、事業項目が多くありますので、一つの事業は30人～50人ぐらいの規模にしております。

相互交流事業においては、留学生同士だけ

でなく、日本人学生を含めての交流が要請されており上記諸事業では日本人学生の参加を呼びかけています。

〔付〕

- 1) 留学生支援の会の諸々の事業は「会報」に掲載される参加留学生の感想文に記されているように、皆さんから高い評価を受け、感謝していただいております。また、事業に参加することにより、親しい友人を持ったことを喜ばれる方もいます。将来の国際親善・友好交流に繋がるものと思っております。
- 2) 広く調査したわけではありませんが、外大のような留学生支援の会を組織して持っている例は、非常に少ないのではないのでしょうか。資金を集めて奨学金を授与したり、貸付金を出したりしている大学はあるかも知れませんが、ボランティアの幹事が、毎月、見学・ツアー、体験学習など、心のこもった支援を行うのは、稀有なことなのかもしれません。留学生支援の会の一層の発展を期待いたします。

20年間の様々なエピソードなどを今後も随時皆様にご紹介したいと考えています。会員の皆様からの寄稿も歓迎いたします。

## REPORT

### 3. 活動報告

3 - 1

「小江戸」川越文化体験ツアー報告

#### I. 実施内容

12月8日(日) 9:30～15:00

参加者：留学生 17名 日本人学生 4名  
幹事 5名 計 26名

(参加幹事(敬称略):井上、河野(かわの)、河野(こうの)、高橋、中村)

<スケジュール>

- 9:30 JR 国分寺駅集合  
(9:41 西武国分寺駅出発)
- 10:22 西武本川越駅着 (現地集合3名)、  
到着後全員揃って川越体験開始
- 10:50～ 喜多院(慈恵堂)見学
- 11:30～ 川越城本丸御殿見学 (入場)  
終了後、全員で記念撮影
- 12:15～ A～D グループに分かれて行動  
(昼食、市内主要観光スポット自由散策等々)
- 各グループとも 14:30 頃に「川越まつり会館」  
入場
- 15:00 頃 グループごとに解散し、以降自由  
行動



## II. 要素ごとの個別報告

### <企画・参加者募集>

例年の定例的に実施してきた「浅草下町ツアー」に代わる初のツアー企画であったため、その性格付けについて幹事会でも幹事間でも種々の議論がなされた。とりわけ、「留学生にはあまり知られていなくて、個人的には行く機会が少ないものの、日本伝統文化が色濃く残るところ」としてどこを選択するか、ツアーの規模と行動形態(全体行動、グループ行動、個人行動等々)をどう設定するのか、等々であるが、結果的には30名という募集枠とし、散策・文化体験の前半は全体行動、後半をグループ行動として企画・立案した。

参加者募集に際してはポスター貼付以外に留学生課から留学生全員へ一斉メールを2度も流していただき、企画の周知を図ったつもりであったが、「川越」が「小江戸」と称される神髄を伝えることは容易ではなく、結果として23名の応募(うちキャンセル2名)にとどまった。これについては、「今後の課題」で論じたい。

### <当日現地集合・受付>

多磨駅から武蔵境駅経由で来る参加者が大半であることを考慮してJR国分寺駅改札出口での集合としたが、ごく一部の現地集合希望者を除きほぼ時間どおりの集合ができた。最近スマホアプリのお陰なのか、集合に難渋することが少なくなっていることはありがたい。

(ポスターの一部) 留学生支援の会主催

小江戸川越文化体験ツアーに参加しませんか?

日時: 12月8日(日) 9時30分集合



集合場所: JR国分寺駅

参加費: 500円

(昼食代・入館料などを含めたお得な特典付き)



## ＜全体行動＞

### 1) 喜多院(慈恵堂)見学

この上ない快晴に恵まれ、まずは全員揃って西武線本川越駅を出発。徒歩 20 分強で喜多院に到着したが、紅葉が美しく残っていて留学生は写真撮影にしばし時間を費やした。その後、喜多院(慈恵堂)を眺めつつ多宝塔も見学したが、ここは徳川家ともゆかりが深くて建物の多くが重要文化財に指定されている。残念ながら時間制約から入場はせずに外部からの見学に限定したが、時間管理的観点からは結果的には正解であった。留学生にとってはちょうど開催されていたカラフルな「和傘展示」に興味があったようで、これもシャッターチャンスとなっていた。

### 2) 川越城本丸御殿見学 (入場)

1457 年に築城された川越城の本丸御殿として 1848 年に造営されたもので、現在は玄関、大広間、家老詰め所が残っている。ここは入場してじっくり見学したが、留学生にとっては京都の石庭を彷彿とさせる庭の造りが印象的だったようだ。また、当時の家老たちの何やら打ち合わせ中の姿を模した実物大人形が思いのほかリアルであった。川越随一とも言えるほど由緒ある邸宅であり、できればその全容をボランティアガイドの先導のもとに見学したかったが、あいにく入場時には全員が見学者対応中であつたことは残念である。このような場合に備え、今後は説明者予約の可否を事前に確認することも考えていきたい。

ここを出た後、本丸玄関前で快晴下での全員記念撮影。

## ＜グループごとの自由散策＞

ここまでが全体活動、さあこれからがグループごとの自由散策だ。この時点で正午を回っていたので、まずは各グループともランチタイムに突入した。事前の下見調査やインターネット等による情報では、週末は主要なレストラン・食事処は長蛇の待ち行列ができると予測されていたが、こ

の日は快晴で人出も決して少なくなかったように思えたものの、グループによっては意外にも全員(幹事を含めて5~7人)が同じテーブルに着くことができた。一方で、参加者一人ずつ事前にランチ・お菓子代を手渡していたこともあって、興味ある店頭を巡りながら「食い歩き」をエンジョイしたグループもあり、それぞれに「小江戸」を楽しんだようだ。筆者のグループは和食レストランに入り、留学生は全員「城下町定食」で舌鼓を打ち、また一部は評判の地ビール COEDO も味わえた。

食後は川越名物が味わえる「菓子屋横丁」を訪ね、またグループによっては「時の鐘」、由緒ある屋敷・古寺等を巡って、「川越」に色濃く残る日本伝統文化を垣間見た。

## ＜川越まつり会館での観劇後、解散＞

各グループともに14:30~15:00の間に「川越まつり会館」に集まって、この場で人数確認後解散したが、この日は偶然にも同時刻に「お囃子踊り」が催されており、留学生達が殊の外強い興味を持って鑑賞していた。ここでは撮影が許可されているので、ある参加者はスマホで動画撮影後、故国の母親に送って見せたとのことで、実に微笑ましく感じた。

予定どおり15時頃のグループごとの人員確認を持ってツアーを終えたが、その後も三々五々自由に「小江戸」を楽しみながら各自家路にいったようだ。なお今回は、当日解散時に作成依頼した感想文3通がなんとツアー翌日まで届き、その優れた日本語能力も含めて感心させられた。本会報に同時掲載される名文(!)をぜひ一読されたい。

## Ⅲ. 総括と次回への課題

### 1- 企画の意義・課題

冒頭にも記したように、「浅草下町ツアー」に代わるものとして企画・実行した「川越ツアー」は、参加者の声や実施後の感想文で判断する限り、日本伝統文化紹介という本来の目的には対応できたものと考えられる。一方で参加者を募る段



階では、応募数から見て「川越」の魅力発信を留学生に十分伝えられなかった可能性もあり、今後の新規ツアー企画に際してどう工夫すれば良いのかが課題と言える。

## 2- 全体活動、グループ活動、個別活動の是非

「川越」というスペース的に限られた文化体験対象に対し、どのような行動形態であれば参加者全員がこれを楽しんでもらえるかが企画段階での論点であったが、結果的に前半の重要史跡・建造物見学は全員行動、その後の飲食を含めた散策・文化体験はグループごとの行動という今回の形態は機能したと考える。とりわけランチ時に幹事や日本人学生を含めて、お互いに会話を交わしながら国際交流を図れたことは当会目的にも沿えるものであり、今回のツアー対象に対しては妥当であったと言えるだろう。

以上、今後ともこの種の新たなツアー企画に際して、対象場所・施設をより多くの留学生にどのように広報していくべきかを課題としながら、次の企画に取り組みたい。

(幹事：高橋、中村)



## 川越ツアー見学—感想文

胡金越 コキンエツ

(中国 ISEP 留学生)

(International Student Exchange Program)

2019年12月8日日曜日、私は留学生支援の会が主催した川越ツアーに参加し、初めて川越へ行って喜多院、川越城本丸御殿などを見学し、楽しい一日を過ごしました。

まず、喜多院を訪れました。どろぼう橋を渡ると、紅葉が人々の目を奪いました。主殿の周りに、厳かな雰囲気は漂っていました。七五三のお祝いのために参拝に来た子供たちも何人か見ました。着物を着て、おとなしく記念写真を撮っている小さな姿は可愛かったです。きれいな和傘が慈眼堂の外で展示されているのも見ました。手が込んでいる和傘が私の心を動かしました。

そして、私たちは靴を脱いで、本丸御殿館内に入りました。教科書の中で、枯山水のことは見ていつも憧れを抱いていた私が、初めて枯山水を見ました。床に立って、ずっと枯山水を見ていると、心が自然に落ち着きました。中国の庭園と違って、日本の庭園は静かで、すっきりしている感じがします。グループの幹事さんである河野先生が、「簡単が一番いいと日本人はそう思っている」と言いました。どこでも見られる「空白」は多分、その日本だけの「静寂」の美意識を伝えています。今日はすごくいい天気なので、日に当たった畳を踏むとすごくいい気持ちでした。

お昼休みに、グループの皆さんと一緒に和食を食べました。すきやきと地元の甘い芋ご飯はすごくおいしかったです。食事をしてから、川越まつり会館に行きました。会館の中で、みんなと一緒に囃子を楽しみました。伝統的な楽器と仮面姿で演じた

天狐と獅子は面白かったです。そのあと、役者たちと一緒に写真を撮りました。伝統楽器を演奏できる役者たちはすごいと思います。川越まつりは、毎年10月第3日曜日とその前日の土曜日に行われ、その時山車を曳き回して、舞台上で囃子の演奏がされると聞きました。会館に保存されている「猩々の山車」を見ました。見事で豪華な本物の山車を初めて見たので、その美しさに感動しました。中国ではこういう祭りがないので、日本の祭りがどれほど賑やかなのかを想像しました。いつか機会があれば、伝統的な舞踊を踊りながら、祭りを楽しんでみたいです。

最後に、みんなと菓子屋横丁で散策しました。「懐かしいお菓子屋」は私に子供の頃の記憶を思い出せました。小学校の時よく食べたお菓子が、ここでも見られることに驚きました。私はいくつものお菓子を買って食べました。ほんとうに懐かしかったです。

以上をまとめてみると、今日のツアーは楽しくて、勉強になりました。身をもって日本伝統文化を体験してみたら、もっと日本文化の魅力を感じると思います。これからも、留学生支援の会が主催する行事に参加して、深く日本文化を味わいたいと思います。

## 川越文化体験ツアー感想文

慧儿（ギ カケイ）

（中国 ISEP 留学生）

およそ三週間前、川越文化体験ツアーのお知らせがメールアドレスに届いた。日本文化が色濃く残っている「小江戸」と呼ばれている川越に行くことが、歴史が大好きな私にとってはいいことだと思って、参加することにした。

川越に着いた後、まず喜多院に行った。日曜日なのに観光客が思ったより少ないので、ゆっくり見ることができた。慈恵堂の前に、着物を着ている可愛い女の子を発見した。着物に興味を持っているので近づこうとしていたところ、一緒に来た日本人の学生が「これは七五三という行事ですよ。日本では、子供が7歳・5歳・3歳の時に神社で成長を祝う行事を行っている」と私に説明してくれた。以前、日本の文化を学ぶ時に七五三という内容があった。試験のため、意味もよく分からなかったのにただ暗記した。今回のイベントをきっかけとして、この行事を深く理解することができた。

喜多院から出て城本丸御殿に行った。玄関、廊下、庭など、何もかも日本の江戸時代なりの特色がある。日光を浴びている廊下に座って美しい庭を味わうのは何と幸せなことだろう。日々のストレスから解放されるほど快適なところだと思う。

そろそろ昼ご飯を食べる時間になった。私たちは一人ずつ1500円の食事代をもらった。せっかくだから地元の料理を食べたいと思って値段の高い料理を注文したため、ドリンクを買う余裕がなくなったが、同行幹事の方が奢ってくれた。本当にありがたいと思った。食事中、皆といろいろな話をした。他の国の文化とか、現在の日本の年配者の考え方とか、たくさんのことを初めて知った。料理も本物の日本食で、とてもおいしかった。

食事の後、川越の祭りを見るために川越まつり会館に行った。そこで川越まつりのお囃子を見学した。ただ5人の出演なのに、大きく息を吐けないほど勢いが強かった。寮に戻った後、両親に撮ったビデオを送った。両親もこの演技に感動させられた。その後、よくテレビで見る祭りの山車を見た。普段テレビでしか目にしない華麗な幕や、精巧な彫刻によって飾られた豪華な山車の迫力を間近に見られるのは本当にうれしい。

川越まつりを見た後はもともと解散するは

ずだったが、親切な幹事の方が私たち三人を連れて一緒に旧山崎家別邸に行った。そして、晩ご飯を奢ってくれた。食事中、二人の幹事の方といろいろ話した。自分の分からないことを全部親切に答えてくれた。留学生支援の会が行うイベントとか、学校近くの行く価値のある場所とか、昔の日本人の考え方とか、いろいろ教えてくれた。おかげさまで、心の中に頼りを見つけた感じがした。

今回は本当に楽しかった。最高の思い出を残せて、本当にありがとうございます。もし可能であれば、もっと遠いところへの旅行企画が欲しい。例えば、大阪と京都である。自分は京都に行きたいが、一人なら交通路線などを知らないから心細い感じがある。もし、遠いところへの旅行があれば、是非参加したいと思っている。

### 小江戸川越文化体験ツアーに参加して 高田かれん (マレーシア語科4年)

12月8日に行われた「小江戸川越文化体験ツアー」に留学生のサポートとして参加しました。初めに、紅葉がちょうど見頃となった喜多院を訪れました。紅葉はもちろん、喜多院の歴史的建造物や特別展示されていた和傘など「日本らしさ」あふれる写真を皆撮って楽しみました。

次に、川越城本丸御殿を見学しました。歴史を感じさせる建造物の中を実際に歩いてだけでなく、調度品やちょんまげの等身大の人形が展示してあり、当時使われていた川越城の様子を想像することができました。

その後、グループに分かれ、町を散策し、昼食を取りました。私たちのグループは細い裏道で見つけたうどん処で食べることにしました。温かいうどんを食べて体を温めながら、大学で学んでいる授業や自分の出身地、将来の目標など留学生と様々な話をして盛り上がりました。昼食後は、蔵造りの街並みが残る一番街商店街や菓子屋横丁を見て回りながら、川越で有名な

サツマイモを使ったお菓子などをそれぞれ買って、食べ歩きをしました。留学生が興味を持った民芸品やお土産を扱った商店に入り、留学生は地元の方に品物について自主的に質問したり、出身国や大学について地元の方々から聞かれて答えたり、地域の人々との交流も生まれていました。

最後に、川越まつり会館を訪れ、川越まつりで毎年使われている山車の実物や、お囃子の実演を皆で見学しました。躍動感あるひよっとこの踊りを見て、留学生が動画や写真を何十回も撮っている姿が印象的でした。

参加した多くの留学生が流ちょうに日本語を話していて、積極的に日本語を使って勉強しようという熱意に感銘を受けました。留学生にとって今回のツアーが日本留学の思い出の一つとなるお手伝いできたのなら、大変嬉しく思います。私たち日本人学生も英語や専攻言語など今まで学習した言語を使って留学生とコミュニケーションをとる機会を持てたことで、日々の学習に一層努力しようとモチベーションを高めるきっかけになりました。また、一緒に川越の町を歩いて回る中で、普段は気に留めていない日本の文化すばらしさを再認識することができました。





全員で記念写真 みんないい笑顔！

### 3-2 外語祭バザー報告

2019年11月22日（金）～24日（日）

東京外国語大学研究講義棟 226 教室  
来場者延べ 300 人以上

売上：267,790 円（うち材料費等経費  
60,645 円）実売上 207,145 円

今年も外語祭バザーを開催しました。このバザーは、留学生支援の会の活動を広く皆様に知っていただくことと、留学生を支援する活動の充実を図ることを目的としています。今回で3回目となります。

外語祭バザーのきっかけは、毎年春秋の2回実施している留学生向けのバザーにたくさんの品物をお寄せいただけていますが、中には、とても良い品物なのだけれど、学生にはそぐわないセット物の食器、高級な商品（皿、鍋、食器、漆器等）、大型の商品等が含まれており、お寄せくださった皆様のご厚意を活かすため

にはどうしたらよいかを考えたことに始まります。

今年もそういった品物に加え、幹事の手作りの品（リース、苔玉、樹脂粘土細工、お菓子のマグカップ詰めなど）、絵葉書、アクセサリー、トルペイントの壁掛け等、多彩な品物を準備しました。特別企画として、シリアからの留学生ミリアムさんによるヘナタトゥー、アフガニスタンからの留学生アリさん扮するサンタクロースと写真を撮るイベントも行い、来場してくださった皆さんに喜んでいただきました。

実のところ、今回は当初、学園祭バザーが開催できるか危ぶまれていました。留学生支援の会の活動が十分周知されておらず、学園祭実行委員会から教室を使うことについて難色が示されたのです。その後、支援の会副会長や大学の先生方のご尽力もあり、無事開催にこぎつけることができました。

今年の外語祭は天気恵まれず、22日と23日は雨、24日の日曜日にも雨こそ降らなかったも

の、良いお天気とは言えない中での開催でした。昨年と比較して売り上げが厳しかった要因かと思います。

その中で、毎年バザーを楽しみに来てくださるお客様がいらっしゃり、励まされました。去年より少ない客足の中、箱詰めの新品寝具は早目に売り切れ、食器等も心配されていた大物セットが売れました。また、わたくしたちが全く気付いていなかったようなものを見つけて買ってくださいお客様、手伝うと言ってくくださった年配の男性のお客様もいらっしゃいました。開催には苦勞が多い中、そういったお客様との出会いは喜びです。

一方で、残念なことです。が学生さんからこのバザーを何年も全く知らなかったと言われました。大きな教室をお借りして行っているのですが、まだまだ周知されていない現状です。しかし今年初めて tuftube の方々が取材に来てくださり、大いにありがたいことでした。

留学生はもちろん、日本人の学生さんたちにも私たちの活動を大いにPRしていかなくてはと思います。

最後に会員の皆様へのお願いです。大きな会を使つてのバザーですので、毎年準備、後片付け等苦勞しております。今年も多くは幹事が参加し、特に搬入の際は男性幹事が活躍しましたが、一人でも多くの皆様のお力をお貸しいただけると幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。  
(井上、小平)

### 3-3 福生(ふっさ)西洋と日本の飲食競演ツアー報告

#### I. 実施内容

2020年2月20日(日) 9:15~16:00

参加者: 留学生 12名

幹事 若干名同行

#### <スケジュール>

9:15 JR 中央線武蔵境駅集合

10:10~15 JR 青梅線福生駅着

\*2名集合遅延のため、2班に分かれて移動

10:30~ 「大多摩ハム」: 製造工場見学

11:30~ 同社内レストラン『シュトゥーベン・オータマ』でランチ

(ポスターの一部)

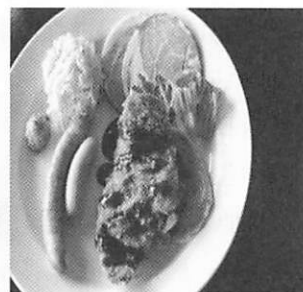
### ハム・ソーセージ製造工場 & 日本酒酒蔵 福生市 ~ 西洋と日本の飲食競演 ~

日時

2月20日(木曜日)

9:15 集合 JR 武蔵境駅(西武線からJR中央線への出口付近)

10:30~ JR 福生駅 「大多摩ハム」 製造プロセス見学 + ランチ



14:00 ~ JR 福生駅「田村酒造所」製造プロセス見学 + 試飲



申込み受付

・参加者募集 : 留学生 20 日本人学生 5

・参加費 : 500 円



- 全員で記念撮影
- 13:15～45 「大多摩ハム」から「田村酒造」へ  
徒歩移動
- 14:00～15:40 「田村酒造」 日本酒酒蔵  
見学、試飲
- 16:00 頃 JR 福生駅へ移動後、解散

## II. 要素ごとの個別報告

### <企画・参加者募集>

例年の日本先進技術紹介としての工場見 学を、本年は「食と飲」に着目して「西洋と日本の競演」という形を採り、午前中はドイツ直伝のハム・ソーセージ製造技術、午後は歴史ある日本酒醸造技術を見学対象に設定してツアーを企画した。

ツアー募集開始に際しては、2 月が「冬学期中」で集中授業が中心であり、留学生・日本人学生ともに集めにくいのではとの危惧があったが、今年はそれに加えて新型ウイルス懸念が拡大し、結果として12名(日本人学生はゼロ)という参加数であった。

参加者募集に際してはポスター貼付以外に 留学生課から留学生全員へ一斉メールを2度流していただいたが、実際に参加してくれた学生に聞くとやはりこの企画の存在を一斉メールで知ったという者が多く、当面はこれが最も有効であろう。今後はこれに加えて当会のホームページ(facebook 上にあり)の積極活用が幹事会にて議論されており、次回以降活用を図っていききたい。

### <当日現地集合・受付>

留学生間に於ける「福生」という土地の知名度に鑑み、参加者の大半が居住する外大留学生会館からのアプローチが西武線多磨駅からなることを勘案して、JR 武蔵境駅改札付近での集合としたが、12 名中10 名は時間厳守で集合、2 名が若干遅延したが、幹事1 名が待機して数分遅れで無事に出発し、JR 福生駅で全員が合流できた。

### <具体的ツアー内容>

#### 1)「大多摩ハム」：製造プロセス見学

##### ①技術紹介

到着後、直ちに隣接するレストラン内でまずは映像

で会社の歴史、技術上の特徴等を学んだ。製造技術上の最大の特徴は、創業者小林榮次氏が1921年にあの著名なアウグスト・ローマイヤー氏に弟子入りしたことから始まったドイツ伝統製法にある。豚バラ肉の漬け込み液による熟成、山桜のおがくずによる直下式燻煙等々、100年近くもこの技術を守り続けてきたことへの誇りを大いに感じた。説明後、これらに対する質疑時間もあって、一部の学生からの質問もあったが同行幹事にとっても魅力的な技術紹介で、西洋食技術・文化理解の貴重な場ともなった。

##### ②製造現場見学

その後、半製品となったバラ肉の切削加工・製品梱包工程を見学させていただいたが、見学前には製品への外部汚染防止のために専用の見学者白衣とブーツ着用を義務づけられた。作業者は頭部フードや手袋も二重化されているとのことで、管理が徹底されていたことが印象的であった。作業者の年齢層、立ち仕事の負荷等、労働・作業環境に関する質問が出ていた。

##### ③ランチ(ポスター参照)

いよいよお待ちかねのランチタイム、当工場製品の数々をフルスペックで味わえる Tokyo-X ランチというメニューを予約していた。ソーセージ、ハム、ベーコンに加えて、大型カツレツも盛られ、参加者の半数を占める男子留学生も大満足。それに量のみならず味が抜群であり、「これがドイツ直伝の味かあ！」と納得。せっかくなので、自然の成り行きで同行幹事から留学生にドイツ風ビールを振舞った。最後に、小さなソーセージセットを留学生への土産とし、午前中の「西洋/食技術文化」見学を終えた。







## 2) 日本酒酒蔵「田村酒造」見学

### ①歴史

「大多摩ハム」からJR福生駅を跨いで徒歩約25分、14時前に午後の「日本/飲技術・文化」を学べる「田村酒造」へ到着した。田村家は代々、武蔵国多摩郡福生村(現・福生市)の名主を務めた家柄で、田村酒造は1822年(文政5年)、9代目・田村勘次郎が造り酒屋を始めたことに端を発している。なんと玉川上水からも分岐して酒蔵敷地内に取水された水が滔々と流れており、豊富な地下水も含めて酒造りに於ける良質の水の必要性を学ぶことができた。

### ②酒造りプロセス(酒蔵見学)

広い日本庭園を擁する敷地内に建つ酒蔵は外部からは伝統ある古い建築様式であるが、一旦内部に入るとそこは一転して近代的な製造プロセスであり、今まで抱いていた酒蔵のイメージを一新させるものである。少ない人数とコンピューターで数値管理された醸造条件設定からは、まさに近代的醸造技術を見せられた気がした。「工場内のどこでどんな写真を撮っても可」という自負は、重要な製造条件がシステム管理されていることの証左とも言えるだろう。

留学生が興味を持って見学したのは、まずは原料米から実際に醸造原料となるまでの表層部研磨ロスの程度であり、特別な吟醸酒では何とわずか35%しか使用されないことを現物で示されて、一同興味津々であった。また、醸造に使用される巨大なタンクが繊細な温度管理によって制御されており、例えば最高級品製造時には室内温度がマイナス5℃ということにも驚いていた。

### ③試飲

全く日本酒を受け付けない留学生がいると想像していたが、全員試飲への意欲満々であり、3種類の酒を準備いただいたので、まるで品評会。同じ酒を何度も試飲しつつ、満足そうにうなづく姿を見ているとこちらも嬉しくなってくる。同時に製品の購入もできて、さすがに留学生による購入は少なかったが、ここは同行幹事の出番とばかりそれぞれ売上に貢献した。



## III. 総括と次回への課題

### 1- 企画の意義

時期的な問題・制約から留学生は12名という参加数に止まったが、西洋・日本を代表させていただいた両工場では実に懇切丁寧で暖かいホスピタリティーに溢れた対応をしていただき、当日解散時まで留学生から聞いた範囲では当初期待した以上に高い評価を貰えたように感じた。製造プロセス見学時には守秘という観点から必ずある種の制約が伴うものであるが、両工場ともにその制約範囲内で精一杯の製造技術面の特徴を説明していただき、我々の理解を助けてくださったことに感謝したい。

### 2- 今後の課題

「福生」という地が、「西洋・日本の食・飲競演」を学び体験するという目的に十分資するということは実感できた。とりわけ、武蔵境から35~40分という立地上の有利さ、およびこの両工場の見学対応への熱意とホスピタリティーの高さから、来年以降も継続するに十分値すると判断するが、作成依頼した留学生からの感想文からも、より具体的な要望を読み取

って今後活かしていきたい。

一方で、この2、3月という冬学期中のツアー企画に対する時期的な是非判断が課題として残る。この件に関しては既に2月の幹事会でも議論を開始しているが、2020年度事業計画に合わせて最適な年間ツアー配置を考えていく必要がある。

(幹事：中村)



#### <福生ツアーの感想>

参加者に下記の質問を投げかけ、留学生から下記のツアー感想文をいただきました。

1. 今日のツアーの印象 (ハム工場、日本酒酒蔵)
  2. 特に興味を持ったこと(自分の国と違うこと、特に日本的だと感じたことなど)
  3. 今後、我々の会に期待したいこと (ツアーで行きたい、味わいたい日本文化・場所等)
- 一部、英語でのコメントもありましたので、当方の責任でできるだけ忠実に日本語にしました。  
(掲載順は、当会への原稿到着順)

Davaajargal Eva ダウヤージヤルガル エヴァ  
(モンゴル ISEP 留学生)

私はモンゴルからの留学生ですが、このようなイベントに初めて参加しました。ハム製造工場および日本酒酒蔵見学にとっても満足しました。いずれも素晴らしいサービスでした。ハムの製造工程を見学できてとても嬉しく思いますし、またその後

いたランチでのハムの味は絶品でした。酒蔵では見学後に3種類のお酒の試飲ができましたが、それぞれ異なった味であることを実感しました。次に機会があれば、日本の皇室や文化に関連する場所を訪りたいと思います。本当にありがとうございました。

Adiyadolgor Adiya アディヤドルゴール アディア  
(モンゴル 研究生)

こんにちは、昨日は良いツアーに連れて行っていただき、ありがとうございます。ハム工場と日本酒酒蔵はどちらも楽しかったですが、日本酒酒蔵について説明していた方の日本語は、私にはやや分かりにくかったです。外大のスタッフ(註：先生方のことか?)の日本語と普通の日本人の日本語がちょっと違うといつも感じているので、外国人にとってこのように言葉の理解が難しいと思われる時には、できるだけ簡単な日本語で説明してくれれば良いなと思います。今後とも日本文化を体験するツアーに行きたいです。

Nguyễn Thị Thùy Nhung

グエン ティトオイ ニュン  
(ベトナム ISEP 留学生)

今回のツアーは私にとって本当にいい体験でした。実際にハムを作るのを見たり、歴史がすごいハムを食べたりしてとても嬉しかったです。今回食べたハムは今までで一番美味しいハムだと思います。そして、日本酒酒蔵で熱心に説明してくれた案内者のおかげで、日本酒の作り方が分かりました。そこには伝統的な要素とモダンな要素が混ざっていると感じました。歴史が深い工場で、モダンな機械と経験豊かな人とが一緒になって美味しいお酒を作っており、それが数百年続く伝統的な味を守っ

ているように見えました。私はお酒が飲めないのですが、見学した時にお酒からとても良い香りがしましたので、ぜひこのお酒を飲んでみたいと思いました。そして試飲してみたら、本当に美味しかったです。ベトナムのお酒より飲みやすいです。今回いい勉強になりました。とても楽しかったです。ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

## Onon Enkh-Amgalan

### オノン エンク アムガラン

(モンゴル 大学院生)

今年で88年を迎える大多摩ハム工場を見学し、ドイツ式のハム作りを三代目社長が受け継いで、現代に至るまで努力と熱心な勤勉さで技術を身につけたことを感じました。大多摩ハム工場は、第二次世界大戦に当時都心にあった工場が全焼したが、翌年新しく工場を作り上げたことを知って感動しました。何事にも負けず前へ進んでいく大切さを実感して、勉強になりました。ビデオで大多摩ハムのベーコンは手間と、時間をかけて造られていると述べられていた通りで、特にベーコンはとても美味しかったです。

2年後に200周年を迎える日本酒酒蔵は、代々続く日本の酒造りに力を入れている酒工場です。原料となるお米を30～70%にまで削って酒を作るということから、まさに高級な酒を作っているのだと実感できました。酒造りの職人の技術は、現代ではコンピューターで温度、湿度などを調整することができて便利になりましたが、昔は色々な方法を試し、試行錯誤で美味しいお酒を作っていたことを知って、それに感動しつつ感謝しました。美味しいお酒造りには、良質なお水とお米がとても重要ということも勉強になりました。

今後、今回のツアーをはじめとして、日本の伝統的な文化を伝えながら、西洋からの文化も取り入れていることを教えてください。ツアーや、それにさらにエンターテインメントも取り入れた企画があれば、是非とも参加したいと思います。今回のツアーはと

ても勉強になり、また楽しかったです。どうもありがとうございました。今後どうぞよろしく願いいたします。

Sasa Vojkic

ヴォイキッチ アレクサンダル・サーシャ

(セルビア 日研生)

(日本語・日本文化研修留学生)

ドイツ風の肉も日本酒も今まで味わったことがなかったなので、このツアーに参加してとてもよかったです。リンゴや梅など、様々な果物から作られているセルビアのお酒と違って、日本酒は米から作られていることを知りました。行ってみたいところがたくさんありますが、一番楽しそうだと思っているのは太鼓のパフォーマンスなので、もし機会があれば連れて行っていただけると幸いです。それでは、よろしくお願いします。

Ísis Togue イージス トゲ

(ブラジル ISEP 留学生)

まずは、ハム・ソーセージ製造プロセスの説明ビデオを鑑賞し、その後に実際の製造作業を見ることができて、とても興味深く感じました。案内してくださったガイドさんは私達からの質問にとっても丁寧に答えていただき、いわゆる「お客様対応」は素晴らしかったです。

日本酒酒蔵に関してもガイドさんが傑出していて、徒歩での工場見学も快適で、日本酒醸造に関して何でも教えてくださいました。もっと多くの種類のお酒を試飲したかったのですが、でも我々が味わえたものはどれも素晴らしかったです。

私の祖国には酒の醸造所が無いので、今回訪問してその製造プロセスをよく知ることができたことはとても良かったです。ハム・ソーセージに関しては、半製品から製品へと切削するプロセスが手動だと知っておやつと思いました。私の国だったら、

そのような切削作業には機械を導入しただろうと思いましたが、手動での切削には何らかの配慮があるのだと思います。

私はあと6ヶ月日本にいますので、歌舞伎、相撲、茶道のような伝統的芸術・武道をはじめとして、あらゆる伝統舞台・劇を鑑賞したいです。さらに、もし伝統的な旅館を訪問できたら、とても興味深く感じることでしょ。

### 3-4 学会発表報告

留学生支援の会では、海外の学会で発表する留学生に1人5万円、国内の学会で発表する場合は1人2万円を申請により支給しています。

今年度支給した留学生より報告が届きました。

#### 学会参加報告

胡 娜(コナ)

大学院博士後期課程

今回、留学生支援の会の御陰で、2019年4月10日から12日にかけて、上海で行われた『2019年度日本語教育および日本学研究国際シンポジウム』に参加した。次に、学会のプログラム、自分の発表内容および学会参加を通して得られた成果について報告する。

『日本語教育および日本学研究国際シンポジウム』は中国・上海日本語教育研究会が主催、年に1度上海で開催される。日本、中国、台湾、韓国、ベトナム、フィリピンなどアジア諸国だけでなく、オセアニア、アメリカ、ヨーロッパからの多くの研究者・教育者も参加されている。発表の内容は、日本語教育をはじめ、日本語学、日本文学、日本文化など幅広く網羅している。

大会のスケジュールであるが、10日は発表者登録の日で、その後の二日間で綿密なスケジュールを立てていた。初日は開会式、その後には

基調講演①、口頭発表・パネルセッションⅠがあった。午後は、休憩時間を挟んで、口頭発表・パネセッションⅡ・Ⅲが続いていた。二日目の午前中は基調講演②、口頭発表・パネルセッションⅣであった。午後には口頭発表・パネルセッションⅤ・Ⅵ、フォーラムがあり、最後は閉会式。夜は懇親会も行われた。

自分は初日の口頭発表・パネルセッションⅠで発表した。発表のテーマは、「日本語学習者における叙法副詞の使用—日本語学習者コーパスI-JASの分析を通して—」であった。この発表は、日本語学習者コーパスを用い、学習者における叙法副詞の使用状況を網羅的に考察した。まず、「推測・推定」を表す叙法副詞の使用率が最も高いという量的な使用傾向が見られた。また、習得しやすい叙法副詞と習得しにくい副詞もそれぞれ確認できた。そして、使用例を通して、三種類の誤用も確認した。

自分は語彙習得の研究をしているが、他の日本語教育関連の発表もたくさんあった。例えば、語彙習得ストラテジーに関する研究、音声の自己評価に関する研究、コロケーションの習得、学習者の自己評価、学習者が持つ意見文の認識、学習者のイントネーションの産出特徴などさまざまな視点から、さまざまな地域の日本語学習者の習得について研究が行われている。

最後、今回の学会発表を通して得られた成果。まず、最近の研究結果の一部を発表することができた。また、質疑応答の時間では、司会者をはじめ、日本語教育研究者の方々から多くの有益なコメント、今後の研究に生かせるコメントをいただいた。このシンポジウムに参加した御陰で、日本語教育の最先端、最前線の研究発表を聞き、たくさんの刺激をもらった。ほかの参加者や研究者との意見及び情報の交換ができて、大変有意義な時間を共有することができた。最後、口頭発表の経験を積むこと。人の前に立つのが苦手なので、不安や緊張がとまらなかった。事前準備の重要さ、パワーポイントの作り方や展示の仕方、またプレゼンテーションのスキル

の重要さを実感した。今回の経験をちゃんと次回に活かせればと思っている。

学会報告は以上である。

また、この場を借りて、いつも留学生の日常生活、研究生生活をサポートしてくれる支援の会の皆さんに感謝の意を表す。

皆さん、いつもお世話になり、ありがとうございます。今後もよろしくお願いいたします。

\*胡娜さんからは昨年6月に報告をいただいていたのですが、掲載が遅れましたことをお詫びいたします。

## 学会出張報告書

呉丹 (ゴ タン)

大学院博士後期課程

この度、留学生支援の会から学会旅費をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、無事に学会発表を終え、大変貴重な経験をさせていただきました。

今回出席したのは、第5回アジア未来会議という学術学会で、この学会は、国際的かつ学際的なアプローチを基本として、グローバル化に伴う様々な問題を、科学技術の開発や経営分析だけでなく、環境、政治、教育、芸術、文化など、社会のあらゆる次元において多面的に検討する場を提供することを目指している学会です。この学会は開催場所が毎年変わり、今年はフィリピンで開催されました。参加者は日本だけでなく、中国や、韓国、台湾、フィリピン、インドネシア、マレーシア、ベトナム、イギリスなど、多くの国や地域から集まりました。

学会の一日目は、首都マニラ市内のホテルで開催され、開会式、基調講演及びシンポジウム、分科会発表がありました。開会式では、在日フィリピン大使や、在フィリピン日本大使からの講演が行われ、改めて学会のレベルの高さを感じ取りました。

二日目は、アジア未来会議の連携校であるフ

ィリピン大学ロスパニョス校で開催されました。私の口頭発表は二日目にあって、「複文におけるテモラウの意味解釈—日本語教育の視点から—」というタイトルでお話ししました。発表が終わって、たくさんの質疑に応答し、貴重なフィードバックや考えを深める機会をいただきました。

大会の3日目には、学会側が主催したスタディツアーがあって、マニラ市内にあるスペイン占領期の建築の見学や、タール湖とタール火山を中心としたスポットの観光など、いくつかの選択があり、私はマニラ市内見学を選んだが、ちょうどその日にタール火山が噴火し、結果、その二日目の帰国の便がキャンセルとなったという、なかなか体験のできないことを体験しました。

このように、海外学会発表など大変貴重な機会を得ることができたのは、東京外国語大学留学生支援の会のおかげです。あらためてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今回学会発表をした留学生の皆さん、ご報告ありがとうございました。

留学生支援の会では、引き続き、留学生の学びを支援してまいります。

### 会員の皆様へ

#### ホームステイ受け入れのお願い

新しく留学生のホームステイを受け入れてみたいとお思いのご家庭がございましたら、次ページ問い合わせ先までご一報ください。登録させていただき、希望者がありましたらご連絡いたします。

## ご寄付をありがとうございます

### ご寄付をいただいた方

#### ■一般寄付（敬称略）

（令和元年11月11日～令和2年2月21日）

※異体字のために正しく表記されない場合がございます。

浅野尚文 加賀晴子 片岡護  
鴻野初恵 酒井暁 鈴木正道  
横石邦彦 梁奕華

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせください。印刷できない外字等ご了承ください。

令和2年2月21日現在  
会員数：1,066名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込くださいますようお願いいたします。

平成28年度新入学の会員の皆様は、お納め頂きました4年分の会費の期間が終了いたしました。引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

※ ひとりでも多くの方々の納入のご協力をお願いいたします。

一般会員：年会費 3,000円  
協賛会員：年会費 20,000円

★平成31(令和元)年度の会費納入は、3月31日(火曜日)まで受け付けています。納入のご協力をよろしくお願いいたします。

## 幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

令和元年12月15日(日)

令和2年1月26日(日)

令和2年2月16日(日)

### お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-2  
東京外国語大学国際交流会館2号館1階  
留学生支援の会連絡室

TEL：042-330-5803

FAX：042-330-5189

\*ご連絡は午後をお願いします。

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

留学生支援の会のフェイスブックでも、活動予定等ご紹介しています。ぜひご覧ください。

### 編集後記

支援の会設立20周年に当たり、設立当初のメンバーである笹岡さんより寄稿していただきました。地道に活動を支えていらした皆さんの想いを、これからもつないでいきたいと思えます。

コロナウィルスの影響で、残念ですが毎年盛況の春のバザーを中止することになりました。品物を準備して下さっていた皆様にはお詫び申し上げます。次の機会のご協力をよろしく願いいたします。(木全)